

COC+

地方創生大学等連携プロジェクト支援事業(県委託事業)

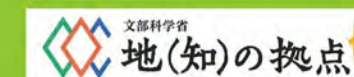
## 採択事業実施報告書



■お問い合わせは

### 大学等による「おおいた創生」推進協議会

国立大学法人 大分大学 研究・社会連携部 研究・社会連携課  
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 産学官連携推進機構2階  
TEL 097-554-7913・7980 FAX 097-554-6177  
<http://www.bundaicoc.org/> E-mail : [cocsuishin@oita-u.ac.jp](mailto:cocsuishin@oita-u.ac.jp)



大学等による「おおいた創生」推進協議会

# 地域と若者が一体となって、 地方創生を推進していきます。

## ごあいさつ



大分大学COC+推進機構 機構長  
越智 義道

平成28年度から、「大学等による『おおいた創生』推進協議会」では、大分県からの委託事業として、「地方創生大学等連携プロジェクト支援事業」を実施しています。この事業は、大学等が持つ研究開発やシンクタンク機能、さらには学生の活力を活用するなど、「知(地)の拠点」である大分県内の大学等と大分県が連携し、地方創生に向けた地域に貢献できる人材の育成や若者の地元定着を推進する事を目的としています。

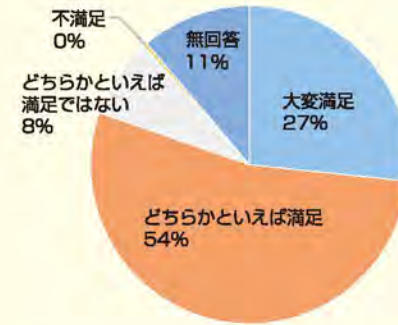
この事業では、学生が地域に出向き、その地域の魅力や特徴を知ることで地元就職や地域定着につなげる地域連携課題解決支援事業「学生による地域ブラッシュアッププログラム」と、若手社会人の知識教養を深め地域に貢献できる人材の育成を図るサテライトキャンパスおおいた支援事業「おおいたプロモーションプログラム」の2つの枠組みで取り組みを行いました。

「学生による地域ブラッシュアッププログラム」では16プログラムを実施し、6つの高等教育機関から参加人数373人の学生が11の地域に出かけて、地域の課題解決について知恵を出し合いました。「おおいたプロモーションプログラム」では12プログラムを実施し、社会人・学生など参加人数400人が大分の新たな魅力を発見したり、大分での暮らしをより豊かにする講座に参加しました。

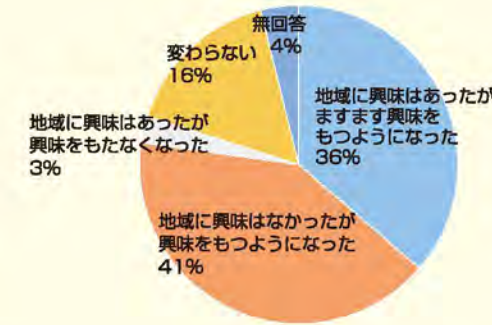
この事業により、学生が地域について理解を深め、地域への関心を高め地域活性化に資する人材として成長する、また社会人が知識・教養を深め、大分を元気にする気運を高める事につながることを期待しています。平成29年度の本事業推進にあたり、ご協力、ご支援いただきました地域の皆様、関係機関の方々に、心よりお礼申し上げます。

## 【学生による地域ブラッシュアッププログラム アンケート 集計結果】

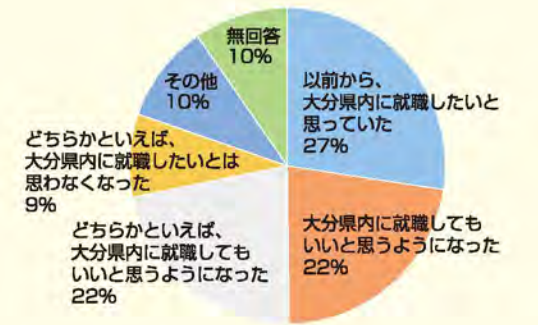
Q1. 参加したプログラムは満足いく内容でしたか?



Q2. 本プログラムに参加しての意識の変化についてお聞きします。



Q3. 本プログラムに参加しての進路希望の変化についてお聞きします。



Q4. 今回の感想をご自由にお書きください。

(おおいた地域創生リーダー養成講座2017)

- ・今回の講座に参加して、自分が住んでいる場所の歴史を深く知ることができ、これから何をすべきか真剣に考えようと思いました。
- ・更に地域に興味を持つようになり、地域に役立てることをしたいと思いました。またこのような機会があったら参加したいです。

(地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト)

- ・地域の魅力を現代社会(例えばSNSや動画等)にあった方法で伝えることが魅力的だと感じました。私の地元は観光客数がどんどん減少しているの、このフィールドスタディで学んだことを活かしていけるように動んでいきたいです。

(地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト)

- ・初めて映像制作に関わったのでとても勉強になった。
- ・先輩と協力して一つの作品を作ることができたので、自分にも先輩にとっていい経験ができた。

(VRで遊ぶまちなかマイグレートプロジェクト)

- ・プログラム内で学んだことを街で見ることが楽しかったです。
- ・純粋に町歩きが楽しめた、楽しかった。

(野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発および販売)

- ・ジビエはとてもおいしかったのでもっと有効活用できたらと思います。地域の有名なものとコラボしてジビエがもっと広まるといいなと思いました。
- ・イノシシやシカなどの害獣をただ処分せずにジビエ料理として活用するのは大変すばらしい考えだと思います。

(大分市判田校区における健康づくり応援プロジェクト)

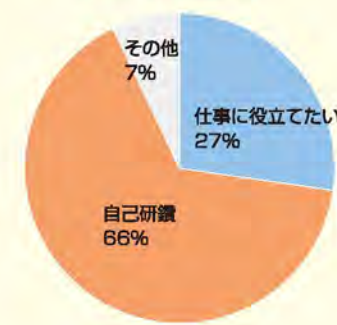
- ・プログラムに参加したことで、大分県の魅力や活用すべき機能などについて改めて考えることができました。
- ・実際に地域で活動することで、その地域に愛着がわき、地域の課題を解決したいと心から思うことができました。

(大分観光バーチャル体験プロジェクト2017)

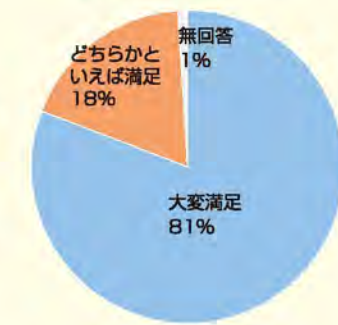
- ・他の団体の取り組んでいることを知られて刺激になった。

## 【おおいたプロモーションプログラム アンケート 集計結果】

Q5. どのような目的で受講されましたか?



Q6. 本講座は満足いく内容でしたか?



Q6で答えた理由をお聞かせください。

- (「生きがいのある暮らしを創るデザインワークショップ」第1講座～第3講座)
- ・様々な職業の方々が集まって自由にものづくりをすることで、新たな視点で物事を考えることの大切さを学ぶことができたから。
  - ・デザインに関する話も聞けたり、実際手を動かして考えることも多く、わかりやすく、ものづくりについて学べたと思います。

(看護の視点からのものづくりと知的財産)

- ・医療従事者の産学連携への関わり方がわかりやすかった。
- ・普段の心がけ、考え方など参考になる話を聞かせていただいた。

(大人のためのものづくり講座～組み込みシステムの基礎～)

- ・ARDUINOに興味があったため。

(大分の恵み再発見～五感が喜ぶ、ショートトリップ～)

- ・豊後の南蛮文化を総合的に知る機会がこれまでなかったので、たいへん勉強になりました。
- ・地元でありながら知らなかったことが多く、また既知の事柄も合わせて整理することができました。

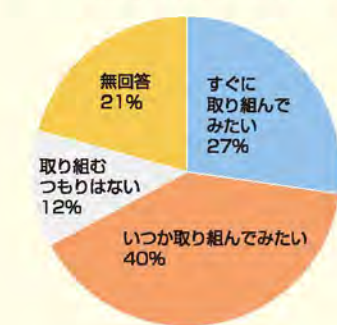
(あなたの「」を伝えよう:プロから学ぶ撮影のコツとSNSの利用)

- ・「スマホでいい写真が撮りたい」と思い参加しました。いいカメラを持っている参加者が多くて恐縮しましたが、スマホでも十分にいい写真が撮れる方法を教えていただいたので良かったです。
- ・雰囲気もよく、実践等もあり、わかりやすく何より楽しかったです。

(大分の精油(アロマ)の魅力と体験～森のかおりとアロマテラピー～)

- ・先生方の興味深い講義がきけて良かったです。
- ・実際に利用できることを知ることができました。

Q7. 講座を受講して講座に関連した活動をご自身でも取り組んでみたいと思われましたか?



## <学生による地域ブラッシュアッププログラム>

学生が人々との交流を深めることにより、地域の生活文化・風景・特産品などの魅力に出会い、それを通じて地域の持つ様々な課題解決に取り組む事業です。

| 事業 | 申請大学等            | 事業名   | 申請者           | 連携地域                      | 実施時期       | 頁  |
|----|------------------|---|---------------|---------------------------|------------|----|
| 1  | 日本文理大学           | おおいた地域創生リーダー養成講座2017<br>～地域の魅力発掘と課題解決ができる社会人を目指そう～                                | 教授<br>吉村 充功   | 大分市・中津市・<br>佐伯市・<br>豊後大野市 | 6月～<br>12月 | 5  |
| 2  |                  | 地域資源を活用した<br>地域観光プロモーション活動プロジェクト  | 准教授<br>今西 衛   | 豊後大野市<br>津久見市             | 6月～<br>12月 | 6  |
| 3  |                  | 地方創生のための学生目線による<br>地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト   | 教授<br>小島 康史   | 大分市・臼杵市                   | 6月～<br>1月  | 7  |
| 4  | 大分県立芸術<br>文化短期大学 | まちに行き、友人・知人に教えたい誘導展示実験  | 准教授<br>竹内 裕二  | 大分市                       | 6月～<br>12月 | 8  |
| 5  |                  | VRで遊ぶまちなかマイグレートプロジェクト   | 准教授<br>於保 政昭  | 大分市                       | 8月～<br>12月 | 9  |
| 6  |                  | 大分県地酒焼酎文化発信プロジェクト   | 講師<br>西口 顕一   | 大分市                       | 7月～<br>12月 | 10 |
| 7  | 大分工業<br>高等専門学校   | 紛争を「遊ぶ」 ー紛争すごろくの開発とその実践ー  | 講師<br>久保山 力也  | 大分市                       | 6月～<br>12月 | 11 |
| 8  | 別府溝部学園<br>短期大学   | 野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した<br>地域料理の開発および販売   | 准教授<br>直井 美津子 | 別府市                       | 6月～<br>12月 | 12 |
| 9  | 別府大学             | 玖珠町大麦プロジェクト<br>～大麦加工商品の開発による地域作り～   | 教授<br>仙波 和代   | 玖珠町                       | 6月～<br>12月 | 13 |
| 10 | 大分大学             | 竹田の色 ～紫を巡って～  | 准教授<br>都甲 由紀子 | 竹田市                       | 11月        | 14 |
| 11 |                  | 宇佐市余谷資源発掘プロジェクト   | 教授<br>宮下 清    | 宇佐市                       | 7月～<br>11月 | 15 |
| 12 |                  | 観光と交通を考慮した地域振興プランの提案<br>ー国東半島「六郷満山」百周年を見据えた<br>国東半島内活性化に向けてー                      | 准教授<br>大井 尚司  | 国東市                       | 5月～<br>11月 | 16 |
| 13 | 大分大学             | 大分県観光地や中心部商店街における<br>多言語表記調査及び多言語による表記の実施について<br>ー別府市地獄めぐり温泉・その周辺と大分市中心部商店街を主としてー | 准教授<br>包 聯群   | 大分市・別府市                   | 6月～<br>12月 | 17 |
| 14 | 大分大学             | 大分市判田校区における<br>健康づくり応援プロジェクト  | 助手<br>梶島 千穂   | 大分市                       | 6月～<br>10月 | 18 |
| 15 |                  | 地域の環境活動に取り組むNPOと連携した<br>コミュニティ・リーダー育成プログラムの開発                                     | 教授<br>財津 庸子   | 中津市                       | 6月～<br>12月 | 19 |
| 16 |                  | 大分観光バーチャル体験プロジェクト2017   | 教授<br>古家 賢一   | 竹田市                       | 6月～<br>12月 | 20 |

## <おおいたプロモーションプログラム>

大学等が連携し、若手社会人等に対して、公開講座・講義など知識教養を深める場の提供を行うことにより、仕事へのモチベーションを高めたり地域への愛着を深めてもらう事業です。

| 事業 | 申請大学等            | 事業名  | 申請者               | 連携地域    | 実施時期       | 頁  |
|----|------------------|--|-------------------|---------|------------|----|
| 1  | 大分県立芸術<br>文化短期大学 | 『生きがいのある暮らしを創る<br>デザインワークショップ』(第1講座)                                 | 専任講師<br>松本 康史     | 大分市     | 6月～<br>12月 | 21 |
| 2  | 大分県立<br>看護科学大学   | 『生きがいのある暮らしを創る<br>デザインワークショップ』(第2講座)                                 | 教授<br>濱中 良志       | 大分市     |            |    |
| 3  | 日本文理大学           | 『生きがいのある暮らしを創る<br>デザインワークショップ』(第3講座)                                 | 特任准教授<br>市田 秀樹    | 大分市     |            |    |
| 4  | 大分県立<br>看護科学大学   | 看護の視点からのものづくりと知的財産   | 教務学生グループ<br>浜松 弘一 | 大分市     | 12月        | 22 |
| 5  | 日本文理大学           | 生物多様性と地域資源に関するワークショップ<br>～最新の研究から見てきた地域の宝物<br>「中津干潟」の現在と将来～          | 教授<br>池畑 義人       | 中津市     | 9月～<br>11月 | 23 |
| 6  | 大分県立芸術<br>文化短期大学 | 「超」仕事力実践特講 第1講<br>アマゾンのカリスマバイヤーこと「伝説の社員」が語る、<br>大分で、人生で、成功する仕事力!     | 専任講師<br>安倍 尚紀     | 大分市     | 6月～<br>10月 | 24 |
| 7  |                  | 「超」仕事力実践特講 第2講<br>漫画「エンゼルバンク」のカリスマ転職代理人が語る、<br>幸せを引き寄せる、大分でのキャリアの歩み方 | 教授<br>吉良 伸一       | 大分市     | 7月～<br>11月 |    |
| 8  | 大分県立芸術<br>文化短期大学 | 瀬谷浩介と語る観光立国の行方・大分  | 講師<br>山口 祥平       | 大分市     | 7月         | 25 |
| 9  | 大分工業<br>高等専門学校   | 大人のためのものづくり講座<br>～組み込みシステムの基礎～                                       | 技術専門職員<br>永田 玲央   | 大分市     | 8月         | 26 |
| 10 | 別府溝部学園<br>短期大学   | 大分の恵み再発見<br>～五感が喜ぶ、ショートトリップ～   | 教授<br>牧 昌生        | 大分市・杵築市 | 9月～<br>12月 | 27 |
| 11 | 大分大学             | あなたの「<br>」を伝えよう：<br>プロから学ぶ撮影のコツとSNSの利用                               | 准教授<br>久保田 亮      | 大分市     | 6月～<br>10月 | 28 |
| 12 | 大分大学             | おおいたの精油(アロマ)の魅力と体験<br>～森のかおりとアロマセラピー～                                | 教授<br>氏家 誠司       | 大分市・中津市 | 7月～<br>11月 | 29 |

※ポスターは成果発表会で使用したものです。



# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

おおいた地域創生リーダー養成講座2017～地域の魅力発掘と課題解決ができる社会人を目指そう～ / 日本文理大学 / 教授 吉村 充功

## おおいた地域創生リーダー養成講座2017 ～地域の魅力発掘と課題解決ができる社会人を目指そう～

### 1. 概要

少子高齢化が急速に進む大分県においては、主体的に行動し、課題を解決したり、新たな価値を生み出すこと、さらには多様な人的ネットワークを形成し、人口減少社会でも経済活動を活性化させ、社会を明るくできる人材の育成が急務である。  
そこで、本プロジェクトでは、「まち、ひと、しごと」の観点から、それぞれの地域のリーダーとして活躍できる若手社会人『おおいた地域創生リーダー』を育成するきっかけとして、**県内3地区において、大学生・高校生と社会人の混成グループによる講座を開催した。**  
講座は**講義+街歩き+ワークショップ+発表**を1日完結型で2日に渡って行い、1日目はその地域の魅力を考える内容、2日目はその魅力を活かして地域のまちづくり課題の解決策を提案する内容とした。講座の指導は文理大の教員があたり、ワークショップでは経験のある文理大学生をグループファシリテーターに配置した。実施にあたっては各地区の自治体等とも連携し、受講者の視点で発掘した魅力や提案が地域に活かせるように組立を行った。

### 2. 参加者数

○大学生：62名 ○高校生：12名 ○社会人：12名  
◎合計：86名(28.7人/会場)

### 4. 発表成果：『私たちが見つけた地域の魅力』 / 『地域の課題解決のために私たちはこう考える』

◎中津市(諸町・寺町・中津城周辺) 開催日：11月25日(土)・26日(日) 会場：南部まちなみ交流館

★魅力

★課題解決策

◎豊後大野市(三重町市場周辺) 開催日：12月17日(日)・23日(土・祝) 会場：豊後大野市商工会館/里の旅ものがたり館 あっそうか!

★魅力

★課題解決策

◎佐伯市(城山・大手前周辺) 開催日：12月9日(土)・10日(日) 会場：三余館

★魅力

★課題解決策

### 5. まとめ

大学生・高校生・社会人のそれぞれの立場で地域創生に対する意識向上や能力の自覚、ならびにまち歩きやワークショップを通じたその地域固有の魅力の発見、それを踏まえた地域課題解決の重要性を理解することにつながった。

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト / 日本文理大学 / 准教授 今西 衛

## 【事業A】地域資源を活用した地域観光プロモーション活動プロジェクト

日本文理大学 経営経済学部経営経済学科  
今西 衛・本村 裕之・山城 興介

### 1. 事業目的

大分県は「日本一のおんせん県おおいた」を標榜する一方、豊後大野市をはじめ、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークや豊後大野市の日本シオパークなど、**温泉以外の地域資源が数多く存在するが、これらが顕在化されておらず有効な地域観光資源となっていない。**

これまでの地域観光は、**イベントを中心とした一過性**のものが多かった。イベントを開催するためには、人材確保や費用対効果の問題が生じる。すでに存在する地域資源を活用することで、地域の新規の負担を減らし、観光客の持続的な誘致を目指すことが可能となる。

本プロジェクトの目的は、**地域資源をどのようにプロモートすれば観光客が呼び込めるかを学生間で議論し、学生の視点に立って、地域資源の魅力を発見し、地域資源に付加価値をつけるような情報提供を行い、観光客が訪れ、地域経済が潤う仕組みの確立を目指す。**

### 2. 事業内容

昨年好評につき、在庫がなくなった豊後大野のパフレットをただ増刷するのではなく、バージョンアップを図った。具体的には、昨年盛り込めなかった菅尾駅を中心としたエリア紹介と豊肥本線犬飼駅が7月20日に100周年を迎えたことから、豊肥本線100周年を紹介するページを追加した。



①趣旨説明・アイスブレイク・地域紹介



②まち歩き・観光資源の説明



③発掘した魅力のプレゼン・優秀賞の表彰



④地域の方とのワーク



④犬飼駅 100年事業



⑤追加されたページ(菅尾駅・犬飼駅100周年)

### 3. 津久見市保戸島プロジェクト

参加学生から「津久見市には何も無い」との発言から、本事業での目的が学生に伝わっていないと判断し、スピンオフ企画として保戸島プロジェクトを行った。大分県下では、豊後大野市と津久見市には温泉が存在しない。そこで、津久見をフィールドに加えた。



津久見市役所でのヒアリングと日本一狭い県道(保戸島)の視察

### 4. 活動報告

以上の内容は、大学生観光まちづくりコンテスト2017大分ステージ、大分再発見!観光まちづくりワークショップ2017にて発表を行った。



JTBクリエイティブ賞受賞/ワークショップの様様

### 5. まとめ

豊後大野市には温泉がないというデメリットを逆に取った学生によるプロモーション活動を行うことで、新たな視点からの豊後大野市への観光客誘致の示唆が得られたと思う。提案内容が表彰されるなど、学生の今後の活躍も期待される。

今後は、学生自身で地域をプロデュースすることで課題を解決し、地域に根ざした活動を通じて郷土愛を育み、地元就職志向が高まることを期待したい。

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト / 日本文理大学 / 教授 小島 康史

## 『地方創生のための学生目線による地域企業リクルートビデオ制作プロジェクト』

日本文理大学 工学部 情報メディア学科 小島康史・星芝貴行 研究室  
株式会社 地域経済情報センター（求人ナビおおいだ）

●概要：現在、新入社員の3年以内の高い離職率（大卒30%以上、高卒・短大等卒40%以上、中卒60%以上：厚生労働省サイトより）と、多くの学生の地元を離れ都市部への就職を希望する問題点が挙げられる。本事業プロジェクトでは、「雇用のミスマッチの軽減」、「若者の地元の定着率の向上」、「地元大学等から地元企業への就職率の向上」を目標とし、地元企業の魅力を発信する、学生目線によるプロモーション動画「リクルートビデオ」（3分程度、前後期計4社）の制作を目的とする。

●事業内容：対象企業について下記の流れでプロモーション動画「リクルートビデオ」の制作を行う。

- ① オリエンテーション、スタッフ・チーム編成
- ② 企業取材・打合せ、ロケーションハンティング
- ③ 企画書作成、構成・シナリオ作成
- ④ 絵コンテ作成
- ⑤ 企業訪問、企画提案、シナリオ修正
- ⑥ 企業訪問、撮影・素材受取、素材制作
- ⑦ 編集、ナレーター選定、録音、試写映像完成
- ⑧ 企業レビュー
- ⑨ 修正、エンコード、DVD・BD・動画データ完成
- ⑩ 納品・最終プレゼンテーション

### ●スタッフ・チーム編成：

- 4年：後藤 和典、高山 真慶  
3年：前田 裕城、境 陸人、中矢 秀平、津行 亮介、前田 涼  
2年：池田 周平、春木 孝太郎、新名 宏哉  
1年：河野 靖子、黒木 唯衣歌、能丸 祐一、高木 結萌、江川 舞

●事業成果：各企業側は、本プロジェクト事業で制作したリクルートビデオを利用し、企業説明会での再生や、求人 Web ページへの掲載等を行い、主に就職活動中の学生等に対して PR を行う。制作したリクルートビデオは学生目線で作成されている為、専門業者等のプロフェッショナル制作のビデオより、好感が持たれると考えられる。目的とした、「雇用のミスマッチの軽減」、「若者の地元の定着率の向上」、「地元大学等から地元企業への就職率の向上」に対する成果の計測に

は長期にわたる調査が必要となるが、制作したビデオの視聴により制作対象とした各企業に対する「認知度の向上」と「好感度の向上」等の調査を行う。大学側は、対象企業毎に1~4年生がバランスよくチームを編成し、昨年度までの動画の制作経験を持つ高学年が、低学年に、「動画制作スキル」、「ビジネススキル」、「ビジネスマナー」を継承していくという成果が期待される。学内の授業内での課題制作では経験できない、実際の企業をクライアントとした、制作作業に携わるといふ、大変貴重な経験となり、就職活動にも大いに役立つと期待される。本ビデオ制作に携わった学生及び視聴した学生の、対象とした地元企業への就職率の向上も期待される。



(株)臼杵鋼板工業所 (株)熊野建設  
(株)双葉タクシー (株)トキハイндストーリー

### 若者が作る企業PR動画

大分市一本の日本文理大学の学生が地元企業のプロモーション動画を制作した。就職活動は売り手市場が続く中、どうすれば若者に多くPRをできるか、採用される側の視点を生かした。おもてなしを重視する姿勢や社員同士の仲の良さに注目した内容に、依頼した企業関係者は「自社の特色がよく出ている。思った以上の出来栄だ。」などと喜んだ。

#### 地元4社の特色に注目

大分市一本の日本文理大学の学生が地元企業のプロモーション動画を制作した。就職活動は売り手市場が続く中、どうすれば若者に多くPRをできるか、採用される側の視点を生かした。おもてなしを重視する姿勢や社員同士の仲の良さに注目した内容に、依頼した企業関係者は「自社の特色がよく出ている。思った以上の出来栄だ。」などと喜んだ。

#### 「採用される側」の視点で

大分市一本の日本文理大学の学生が地元企業のプロモーション動画を制作した。就職活動は売り手市場が続く中、どうすれば若者に多くPRをできるか、採用される側の視点を生かした。おもてなしを重視する姿勢や社員同士の仲の良さに注目した内容に、依頼した企業関係者は「自社の特色がよく出ている。思った以上の出来栄だ。」などと喜んだ。

大分合同新聞 2018年1月9日(火)

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

まちに行き、友人・知人に教えたくなる誘導展示実験 / 大分県立芸術文化短期大学 / 准教授 竹内 裕二

## まちに行き、友人・知人に教えたくなる誘導展示実験

— まちなか巨大モザイクアート展 — (報告)

大分県立芸術文化短期大学 情報コミュニケーション学科

○プロジェクト体制：竹内裕二・安倍尚紀・後藤まりあ

○連携団体：大分中央通り会、三井住友銀行 大分支店、(協力)国土交通省、大分県、大分市

○対象者及び参加学生：作成協力した市民230人+作品を見に来た人延べ約3万人、指導的役割を担う学生・20人+お手伝い学生約50人

### □ 本プロジェクトの目的

大分市の中心市街地の活性化には、市民が街に来街してもらうための目的づくりが求められる。これまで活性化活動は、市民目線ではなく、商店主目線による取組みが多い。そこで、本プロジェクトの目的は、本企画関係者（産官学民協働体）一同から街を市民へクリスマスプレゼントとして届けることである。

### □ 事業計画

○企画名：気持ちですが、あなたへのプレゼント！

○展示場所：JR大分駅北口前交差点2か所（展示場所図参照）

○準備期間：7月1日~11月26日

○展示期間：31日間/11月26日~12月25日【設営・撤収は、開催期間前後1日づつ】

※1）市民参加によるモザイクアート（横4.5m×縦3.5m）を切手に仕立て展示する。

○作品内容：1 は、ルノアールの「舟遊びをする人々の昼食」。

2 は、ピアニストのアルグリッチさん。

### □期待する事業成果

今回の取組みにより、地域活性化事業に関わりたいと考えている人々に対し、活性化の取り組みに関与してもらう仕組みを提供することができた。さらには、市民に対して、中心市街地に来街する目的を創出した。また、通りがかりの人々にとっても、強い印象を与えた（多くの人が期間中、作品前で写真を撮っていた）。その上で今回の支援の達成度について、次のような結論を得ることができた。

【支援事業が示すステップ1】本企画に対する新組織を結成し、学生による内部交流を図った上で学生組織による地域への参加の働き掛けを行うことができた。【支援事業が示すステップ2】本取組みが、地域にとっての価値を見出してもらうように働き掛けを行い、本取組みへの参加を促すことができた。【支援事業が示すステップ3-4】目的づくりのための住民参加による作品作成ができ、本取組み課題となる住民の大分中心市街地へ来街するための目的を創出することができた。大人は、このような行事を行うことで、いつもより中心市街地に関心を持つことがわかった。結論として本展示は、本実験の目的を満たすことが出来ることを導き出した。そこで、本手法により今後発展させていきたい。



# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

VRで遊ぶまちなかマイグレートプロジェクト / 大分県立芸術文化短期大学 / 准教授 於保 政昭

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

大分県地酒焼酎文化発信プロジェクト / 大分県立芸術文化短期大学 / 講師 西口 顕一



## VRで遊ぶまちなかマイグレートプロジェクト

### ここにわ物語

大分県立芸術文化短期大学  
メディアデザインコース グラフィックアート分野

#### 概要と目的について

まちなか VR マイグレートプロジェクトとは  
学生の興味関心の視点から「まちの情報」をVRアプリ内に収集・蓄積し、まちなかの魅力的なスポットを共有することで、まちの回遊性を向上させ大分市街地の賑わい創出に繋げることを目的とする。さらに商店街と学生の交流機会を作ることで、大分のまちへの愛着を深め、賑わいあるまちづくりへの関心を引き出し、問題意識の発見と課題改善への緒を見出す。

「ここ」=情報 「にわ」(庭) 「物語」=ストーリー



2018年以降へのレガシー

#### 事業実施内容

VRアプリ活用のため広報誌の発行、公式サイト、Twitter、InstagramなどSNSやプロモーションムービーによる情報発信を行った。



#### ①プロジェクトの広報

広報誌を使ったプロジェクトの説明会  
・大分県立芸術文化短期大学 学園祭  
・国民文化祭プレイベントブースにての広報活動(まちなかGO!連携)



#### ②まちあるきツアー

「ここにわまちなかツアー2017」を開催。第一回は学生が案内、第二回では大分県立芸術文化短期大学学長 中山欽吾氏と大分の歴史に沿ったツアーを行った。



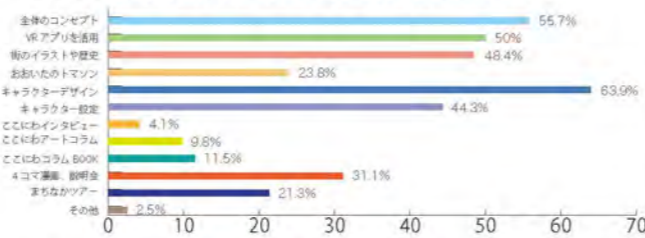
#### ③シンポジウム

大分県立芸術文化短期大学学長 中山欽吾氏による大分の歴史、都市開発についてのシンポジウムをアートプラザにて開催。

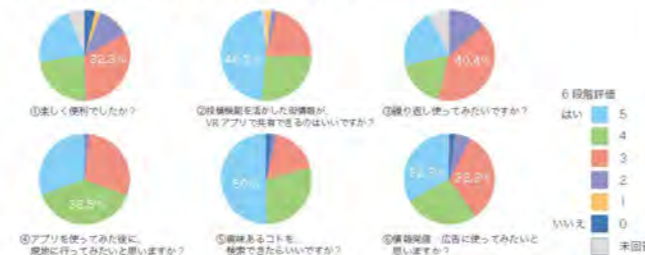


#### アンケート結果と報道メディア

「ここにわ物語」アンケートデータ  
「ここにわ物語」で面白いと思った内容や興味関心のあった項目



PanasonicVRアプリを利用して

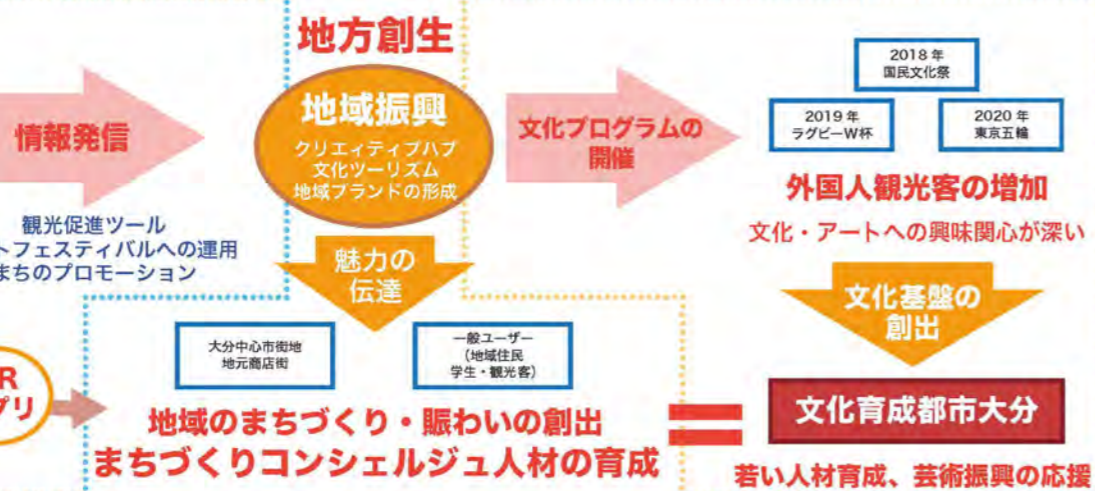


12月1日発行大分合同新聞 紙面に掲載、NHK大分放送局「しんけんワイド大分」でツアーの様子が特集された。



#### 今後について

PanasonicVRアプリ「ここにわ物語」



## 大分県産地酒ブランド認知向上プロモーション おおいだ銘酒館「ゆたよい」の提案

おおいだ銘酒館  
ゆたよい

大分県立芸術文化短期大学 専攻科造形専攻  
ビジュアルデザインコース 2年 高畑 香奈 森里 奈  
担当教員 西口 顕一

#### 概要

大分県の日本酒や焼酎は全国的に知名度はあるが、近年は他県商品の方が多く消費されている。また、現在大分県酒造組合に加盟している酒造メーカーは40社と多く存在するが、県内で地酒を提供している飲食店や販売店舗が少ないため、県民が大分の地酒に触れる機会が限られている。そのため県産地酒の認知度が低く、県内での消費が少ないという問題点がある。そこで、大分県内で地酒の周知活動を始めた、特定非営利活動法人「大分県地酒・焼酎文化創造会議」(以下、NPO法人)と協力し、プロモーション活動の拠点となる展示館のブランディングを行った。



#### 事業内容

##### 1 おおいだ銘酒館「ゆたよい」の目的と施策について

『おおいだ銘酒館 ゆたよい』を通して大分県産の地酒を紹介することで、大分県内外の人たちに「大分の地酒」に対する愛着と関心を深めてもらい、県内での認知度と消費量拡大を目指す。具体的な施策として、館内では、日本酒が約100銘柄・焼酎が約150銘柄を展示し、1杯100円で試飲できる。キャプションには原材料や常圧・減圧、度数、吟醸の種類など、地酒を選ぶ際に来館者が気になる情報を記載し、スタッフが案内している。また、開館時には展示されている地酒の蔵元の関係者をゲストとして招き、その蔵元の地酒について話をうかがう勉強会等を不定期で開催している。展示館の運営は、NPO法人を中心としたボランティアで行っている。

##### 2 ネーミング選定

展示館のネーミングは大分県の旧名称である「豊前・豊後」の「豊」をキーワードに「豊かに酔う」と「良い」という言葉を重ね、『おおいだ銘酒館 ゆたよい』に決定した。展示館で地酒を飲み、楽しくほろ酔い気分を味わいながら充実した豊かな時間を過ごしてほしいという思いが込められている。

##### 3 シンボルマーク・ロゴタイプ制作

シンボルマークは、大分県花である豊後梅をモチーフに、展示館の名称「ゆたよい」の文字で構成している。「大分の地酒」を楽しむことで頬を染め、会話に花を咲かせて欲しいという思いを込めた。また、白地にえんじ色のロゴマークを配置することで上品なイメージを与え、若者や女性など幅広い世代に展示館を利用してもらえるシンボルロゴを目指した。

##### 4 制作ツール

他、以下のプロモーションツールを制作した。  
店舗看板/暖簾/腰巻/キャプション/スタッフ証/会員証/名刺/前掛け/ロゴマニュアル/リーフレット/ウェブサイト/ポスター/枡/グラス/法被

##### 結果と今後 / 認知度上昇の実感 ~さらなる認知度・消費拡大へ

2017年5月のプレオープンから12月現在までの来館者は累計7520名、試飲料は累計58万1155円(2017年12月現在)となり、現在も運営を続けている。また、大分合同新聞をはじめとする多くの新聞やテレビ、雑誌などのメディアにも取り上げられた。今後は、案内のリーフレットを展示館内外で配布することやイベントの継続、また、ウェブサイトの運営、情報更新に努めることにより、さらなる地酒への理解を深めてもらう。また、今後開催される国民文化祭やラグビーW杯、東京オリンピックを機に、国内外での県産地酒の認知度上昇を加速させ、消費量拡大を目指す。

#### 制作ツール

展示館外観(看板・暖簾)



キャプション



ロゴマニュアル



名刺



STAFF証



会員証



法被



五尺枡



前掛け



グラス



ウェブサイト



ポスター



# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

紛争を「遊ぶ」 - 紛争をこころの開発とその実践 - / 大分工業高等専門学校 / 講師 久保山 カ也

## 紛争に強い街づくり (アンドロイド版の開発)

久保山カ也・船越啓樹・佐藤崇正  
大分工業高等専門学校

### 【概要】

大分県には日本を代表する観光資源があり、今後一層外国人観光客の増加が予測される。他方、日本社会全体をみれば少子高齢化により労働力が大幅に減ることから外国人労働者の受け入れ問題が社会的な関心を集めつつある。このことは当然大分県も無関係ではない。大分県は2015年度人口10万人当たりの外国人留学生数が288.6人で日本で一つであった(出典：大分県)。しかし、これまでに経験したことのない外国人の大幅増という変化に対し日本人は脆弱ではないのか。外国人の増加により、日本人との紛争(トラブル)も増えることが考えられるが、文化や社会の異なる外国人との紛争(トラブル)に強い街づくりがいま必要なのではないか。ここではトラブルがないか、これを簡単に自律的に解決できる社会を「紛争に強い街」と位置づけ、具体的に紛争について気軽に触れて学んでいただけるようゲームを開発したが(平成29年度)、さらにこれを改良しかつデジタル化することで目標の実現をはかった。

### 紛争に強い街づくりの目標

- 外国人の目線になって考え方の違いについて理解してもらう
- 外国との文化や宗教の違いからくる紛争(トラブル)を知ってもらう

### 実現のために

- ゲームをしていただくことで楽しみながら、外国人ならびに紛争(トラブル)に対する理解を深めてもらう

### 実装化に向けての手順

### APUで留学生ヒアリング+司法書士の経験+ゲーミング

(当事者の目線)

(専門家の目線)



APUにて

### 実際の紛争(トラブル)事例

- バイトが大変(宗教的な慣習を理解してくれないなど)
- ごみの分別が細かい
- 学んだ日本語と現地の日本語とのギャップ
- 正座の文化がないので苦手
- 印鑑の重要性が理解できない
- 結婚や離婚の手続きが難しい
- アパートを借りたいが保証人がいない
- 宗教が原因で危険人物扱いされる

## 得られた事例をもとにゲームアプリを製作!(体験できます)

### 製作したゲーム画面



■ 誰でも簡単に遊べる人生ゲーム形式のアプリ(アンドロイド版)を作成。

■ 現実の紛争(トラブル)モチーフにしているので、理解が深まりやすい。

### 紛争に強い街づくりプロジェクト

● 紛争×教育×遊び  
→「楽しく学ぶ」から単に「楽しいから遊ぶ」への転換

### ゲーム体験

紛争やその解決に関する見方、とらえ方が変化。結果的に、**紛争領域に強い市民の育成をはかることができる**

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発および販売 / 別府溝部学園短期大学 / 准教授 直井 美津子

## 野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発

別府溝部学園短期大学 食物栄養学科

### 概要(要旨)

- 背景: 全国的に野生鳥獣(主にイノシシやシカ)による農作物の被害が拡大しており、その多くは捕獲され、埋設や焼却によって処分されている。
- 目的: 本事業では、野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発を通して、野生鳥獣の食用利活用を推進することを目的とした。
- 内容: 本事業では、野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理として、平成28年度に開発途中であったジビエハムを完成させるとともに、ジビエハムを使った燻猪ドック、ジビエタコスを開発した。また、「平成28年度OOC+事業A 野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発」についての講演とラジオ出演、及び連携企業との交流会を行った。
- 連携企業・自治体: 株式会社椿屋、大分県農林水産祭実行委員会事務局



●ジビエハム ●燻猪ドック(ジビエハム使用) ●ジビエタコス

### 事業内容

#### 平成28年度 野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発



●ジビエラーメン ●ジビエワンタンスープ ●ジビエベーコン ※H28開発途中

#### ジビエハム

- 試作1回目(H28): 連携企業と協同して3つのレシピを開発し、嗜好型官能評価を実施した結果、最も好まれる「味」のレシピが明らかとなった。

#### 燻猪ドック(ジビエハム使用)

- 試作2回目: 連携企業と協同し、試作1回目で最も好まれた「味」のレシピをベースとした、5つのレシピ(A・B・C・D・E)を試作した。(2017年7月)
- 調査: 5つのレシピの嗜好型官能評価を実施した。(2017年7月28日)

#### ジビエタコス

- 試作3回目: 連携企業と協同し、試作2回目で最も好まれた「味」及び「食感」の2つのレシピを用いて調理工程を変更して試作した。(2017年8月)
- 調査: 完成したジビエハムの試食会を実施した。(2017年9月4日)

#### 別府青年会議所 7月例会における講演

- 日時: 2017年7月25日 19時~21時
- 内容: ①ジビエラーメンの開発・販売(H28) ②猪ワンタンスープの開発・販売(H28) ③ジビエタコスの開発 ④ジビエベーコンの開発
- ※ジビエタコスは、開発途中である。

#### 株式会社椿屋との交流会

- 日時: 2017年12月20日 16時30分~17時30分
- 内容: ①野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の開発・販売(H28)報告 ②燻猪ドック試食、嗜好調査結果 ③企業としての取り組み④今後について意見交換



#### 結果(状況)

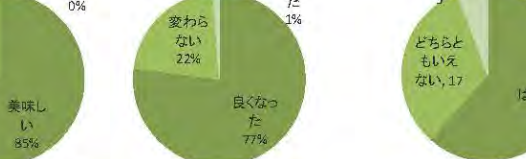
- ジビエハム
  - 試作2回目: 燻猪ドックの嗜好型官能評価
  - 評価項目: 見た目、おいしさ、食感、味の4項目
  - 評価方法: とても好ましい(5点)、好ましい(4点)、どちらともいえない(3点)、好ましくない(2点)、とても好ましくない(1点)の5段階評価
  - 分析方法: 一元配置分散分析(IBM SPSS Statistics 21)
  - 結果: 5つのレシピ(A・B・C・D・E)について嗜好の差異を検討した結果、「味」ではレシピAが、「食感」ではレシピBが有意に好まれた。
- 燻猪ドック(ジビエハム使用)
  - 販売実績: おおいたみのリフェスタ(2017年10月14日、15日) 122食(価格200円)
  - イベント参加学生に対する意識調査

#### 講演・ラジオ出演

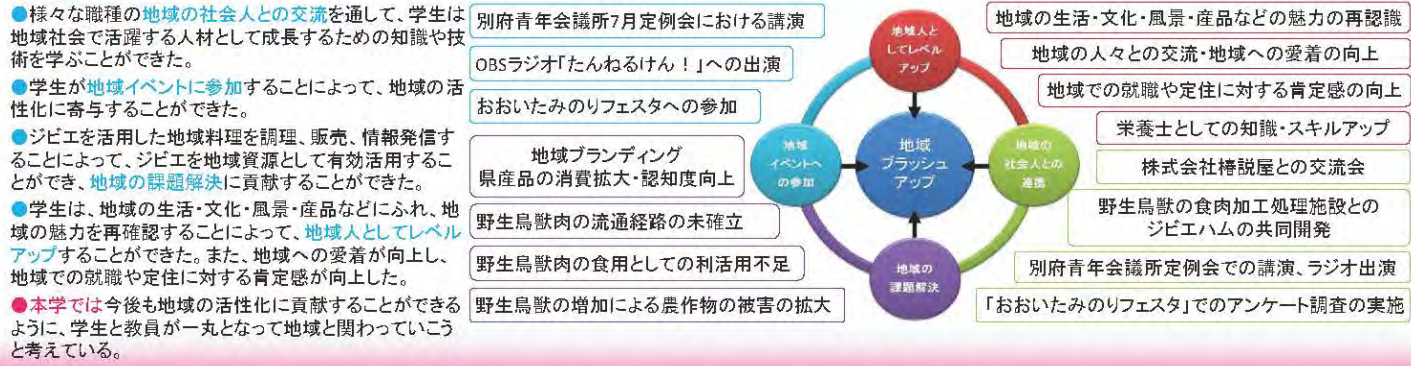
- 学生は、様々な職種の地域の社会人と交流することができ、地域人としてレベルアップすることができた。
- 平成28年度から実施してきた活動内容を紹介することにより、野生鳥獣肉(ジビエ)を活用した地域料理の情報発信に寄与できた。

#### 株式会社椿屋との交流会

- 野生鳥獣肉(ジビエ)を使った料理として、ミンチ肉を使ったパスタソース等の開発が望まれている。
- 平成28年度から実施している活動を継続すること、新たなジビエ料理を開発、販売することで、地域の課題解決、ジビエの認知度向上にさらに貢献していきたい。



### まとめ



## 平成29年度 COC+事業 別府大学の取り組み

H.29年度、玖珠町ブランディング事業に関して、別府大学食物栄養科学科は、以下の事を実施致しました。

- (1) 大麦シンポジウムに参加
- (2) 大麦に関するメニューを考案し、シンポジウムで関係者に試食して頂く。
- (3) 大麦レシピコンテストを開催
- (4) 大麦に関するレシピを完成させる

## 大麦レシピコンテスト

2017年12月10日に「第1回大麦レシピコンテスト」を開催致しました。企画立案・運営、そして新規のレシピ開発も、別府大学の学生が中心に行いました。どのようなメニューであれば玖珠町を活性化できるのか、またどのような色合いが玖珠町のレシピとして良いのかなど、地域ブランディングを念頭においた食品開発となりました。



## 大麦シンポジウム

2017年8月27日に玖珠町大麦プロジェクト研究会主催による大麦シンポジウムが行われました。第一部の基調講演と第二部におけるパネルディスカッションの司会を致しました。また、シンポジウム終了後に、開発途中である大麦のお菓子などをシンポジウム参加者の方々に召し上げて頂き、アドバイスや意見を受け、本格的なレシピ開発の参考とさせて頂きました。



## 今後の活動予定

- 1: 大麦を用いたカレーの商品化。1/11に試作品が完成するので、改良を加えた後に販路を決定し、販売する。
- 2: レシピ集を作成し、玖珠町での学校給食や大麦の利用方法などに役立てて頂く。
- 3: 大分県内のお店と提携し、COC+事業で開発したレシピを一般の方々に広めるとともに販売をして頂く

## 別府大学参加メンバー

**学生:**秋山かなえ 安東華葉絵 石井希枝 板井沙綾 稲村朋果 射場裕子 大島智子 大野愛恵 鷺海遥捺 越智紗耶香 河野伶音 黒木伶汀 坂田美咲 相良優実 佐藤愛夏 佐藤友季 佐藤由佳 佐保香奈 塩月彩加 塩見卓 首藤礼奈 曾根崎菜美 園田愛理 高倉莉奈 高原友花 竹内杏実 田中梓 田中亜弥 都甲侑希 濱田真優 匹田亮子 日高由稀 外園早紀 馬渡桃子 三浦由美 三根友里恵 宮本理央 森田日向子 吉田彩華  
**教員:**高松伸枝 浅田憲彦 梅木美樹 仙波和代

## 竹田の色 ～紫を巡って～

大分大学 教育学部 都甲 由紀子・全学研究推進機構 西口 宏泰

### プロジェクトの目的

- ・竹田市で染色に関わっている方々と当研究室の大学生が交流することにより、現在住んでいる場所の近隣地域や大分県への愛着を深め、地域と染色文化に関する理解を深める
- ・紫根染交流会参加者や竹田市民を対象として、「紫根染め」についての講演会を開催し、地域住民の方々と学生が共に紫について知り、紫草栽培の価値を感得する機会を提供する
- ・竹田市立図書館の新しい利用方法を提案する

### 体制

連携先: 竹田市, 農事組合法人 紫草の里宮農組合, 竹田市立図書館  
活動地域: 竹田市, 大分市  
対象学生の学年および人数:  
大分大学教育学部 3年生 4名  
4年生 3名  
計7名

### 概要

大学での染色にかかわる学び  
↓  
竹田における天然染料栽培  
天然染料による染色活動  
↓  
「紫草」を通して  
地域資源の気づきに  
つながる実践

実践1: 紺屋そめかひ見学  
実践2: 講演会  
「紫を巡るものがたり ～竹田の紫草～」  
実践3: 紫根染交流会への参加・地域の方々との交流

### 実践1 紺屋そめかひ見学

【実施日時】 2017年11月22日15:00～  
【場所】 大分県竹田市竹田町21番地 紺屋そめかひ  
【実施内容】 工房主 辻岡 伏氏による工房・作品案内  
たけた有機藍の栽培・藍建て紹介

竹田における藍の有機栽培と藍建て、型染めの染色について知り、染色に関わる研究課題を探る機会とする。

#### 学生の感想

- ・卒業研究で藍のことをテーマにすることを検討したい
- ・素敵な工房でした



### 実践2 講演会「紫を巡るものがたり」

【実施日時】 2017年11月22日18:30-19:30  
【場所】 竹田市立図書館  
【実施内容】 紫草に関する講演会への参加  
吉岡幸雄氏

県内外から  
46名参加

#### 学生の感想

「紫を巡るものがたり ～竹田の紫草～」  
学生が紫草栽培、紫根染めの文化的背景を知り、講演会の運営をする。新しい竹田市立図書館の新しい使い方を試みる。



### 実践3 紫根染交流会への参加

【実施日時】 2017年11月23日9:00～16:00  
【場所】 紫草の里染色工房 (竹田市大字志土919-5)  
【主催】 農事組合法人 紫の里宮農組合  
【参加者】 染よしおか 吉岡 幸雄氏  
吉岡 更紗氏  
紫の里宮農組合のみなさま・一般参加者  
プロジェクト参加の学生7名・教員2名

【内容概要】  
紫の里宮農組合のみなさまが志土知で栽培し、揚げたばかりの紫根により日本古来の染色方法(楢灰媒染)で絹ストールを染色する。

【日程】  
8:00～ 受付  
8:45～ 9:00 開会  
9:00～12:00 染色会  
午前 (3回染色)  
昼食  
12:00～13:20  
13:30～15:30 午後 (2回染色)  
16:00 閉会



#### 学生の感想

- ・ムラ無く染めることと染液の揉み出しは大変であること、布に色が移っていくことを実感した
- ・根の中が白く、紫の色素が根の皮にあることに驚いた
- ・光の影響や媒染剤の影響で色が違って見えることがおもしろかった
- ・染色という女性が関わっているイメージであったが、男性が多かったことに驚いた
- ・壁に竹田の小学校で紫根染めの授業が行われたという記事が貼られていて、伝統を継承するために地域の教育に紫根の染色実習を組み込むことは良いと感じた
- ・染料である紫根への知識が深められたと共に、郷土料理や地元住民との触れ合いによる大分県への愛着や理解が深まった

### 成果と課題

#### 成果

- ・染工房の訪問、講演会の運営、紫根染交流会への参加を通して、実際に竹田市の地域の方々とふれあい、様々な体験をすることにより、学生の地域や染色に対する理解が深まった。さらに、地域の染料をテーマとした染色研究に対する意欲の高まりもみられた。地域への愛着を深める機会にもなった。
- ・講演会の会場を竹田市立図書館にしたことで、図書館の新しい利用方法を提案することができた。

#### 課題

今回は、講演会や地域の方々との交流を通して染色についての学生の知識を増やし、研究への意欲を高めることはある程度できたが、学生が主体的に運営することに関しては課題が残った。今後は「地域の方々と協働」して情報を発信し、学生が主体的に活動を行うことでさらに地域への愛着を深めることができるよう活動を継続していきたい。

### 謝辞

染工房を見学させていただいた紺屋そめかひ 辻岡氏、辻岡由紀子氏 講演会会場をご提供くださいました竹田市立図書館長 後藤方彦氏、図書館職員のみなさま  
講演会運営にご協力くださいました竹田市役所 後藤 雅人氏、山村明氏、舞希氏、市役所のみなさま  
会場設置にご協力くださいました塚原アトリエ 古庄恵子氏, Kasuga Design Room 古庄優子氏  
紫根染交流会でお世話になりました紫草の里宮農組合 田北真輔氏はじめ組合員のみなさま  
講演会の広報にご協力くださいました真砂洞の澤田知美氏  
講演会から紫根染交流会までご一緒してくださったニットデザイナーの竹下洋子氏  
講演会に参加してくださいましたみなさま  
紫根染交流会で交流したみなさま  
上記のみなさま、関係各位に謝意を表します。



# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

宇佐市余谷資源発掘プロジェクト / 大分大学 / 教授 宮下 清

## 大分の棚田（宇佐市余谷）で体験した 地域資源（自然と人）の大切さ

「学生による地域ブラッシュアップ」プログラム2017（報告）

### 「宇佐市余谷資源発掘プロジェクト」での現地訪問

大分大学 経済学部 経営システム学科 宮下ゼミ 3年生12名

- 参加ゼミ生: 荒木 海至、内田 琴音、大橋 真璃奈、小野 彩香、鈴木 大規、田金 瑠璃夏、高比良 彩華、永井 優成、原田 祐志、藤岡 舞衣、堀 しおり、本田 雄馬

- 連携団体: 宇佐市余谷地区 21 世紀委員会  
会長 御堂了圓 氏



### 1. プロジェクト事業の目的

「余谷地区21世紀委員会」は**地域資源を生かして消費者との交流**に基づき、地域の活力を高める取組みをしています。余谷地区は観光資源を多く有し、「日本の棚田百選」にも選ばれ、稲作や桑、ユズ、シイタケの生産も盛んな地域です。そういう特徴ある地域の方々と学生が交流しお互いの感性や認識を共有することで、**観光資源の発掘や魅力の再認識**につなげます。



### 2. プロジェクト事業の訪問

- ① 7月8日 現地訪問、関係者との交流、小学校訪問など(豪雨により中止)
- ② 9月30日 棚田、サンショウウオの里、石橋の周遊と見学、地域コンサート  
～10月1日 南院内小学校運動会に参加、児童・地域の方々との交流
- ③ 11月23日 収穫祭に参加し、イベント活動の支援と地域との交流

### 3. プロジェクト事業の成果

経営学を学ぶゼミ生は、人口減少地域での活動や交流を通して、**地域資源の存在やその価値**を学び、言葉だけでなく、**素晴らしい自然の中で忘れられない体験**ができました。地域の活動に実際に参加することで、地域の課題を実感し、**地域の新たな価値の創出と共有の意義**を理解しました。今後の人口減少社会を担う人材として、**学生も当事者意識を持つための契機**となりました。



# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

観光と交通を考慮した地域振興プランの提案—国東半島「六郷満山」1300年を見据えた国東半島内活性化に向けて— / 大分大学 / 准教授 大井 尚司

**観光と交通を考慮した地域振興プランの提案**  
—国東半島「六郷満山」1300年を見据えた国東半島内活性化に向けて—

河野友唯・坂本司・椎葉侑利子・野村永・宮里春輝・弥永将治 (大分大学経済学部経営システム学科交通論研究室) 大井尚司 (大分大学経済学部) / 大分県企画振興部観光・地域局観光・地域課

本プロジェクトの成果が『第10回日本観光研究学会九州・韓国南部支部学生論文発表大会』で  
「(優秀賞)九州運輸局長賞」を受賞しました! (2017.12.09)

### ① 背景と目的・研究対象

**背景: 大分の観光と言えば? (県の調査から)**

**大分 = 温泉 = 湯布院・別府**  
→ それ以外は? = 回遊性に乏しい

**研究目的**

大分県内の新たな観光の可能性を示す  
⇒ 観光面における課題と魅力の伝え方についての提案

**研究手法・対象**

県との共同調査に基づいたモデルコース提案  
対象: 国東半島  
(選定理由) 2018年六郷満山開山1300年  
⇔ 観光目的地としての選択が低い

### ② 国東半島の観光振興における課題整理

観光面での課題整理

- 観光地としての**知名度が低い**
- 景観能力が乏しい**
- 自治体間での連携が取れていない**

情報収集面での整理

- 情報収集: スマートフォン → PC → 雑誌
- SNSを見て旅行に行きたくなくなる人は60%
- 友人・知人の口コミで情報入手

**観光モデルコースの提案 + 宣伝・情報提供 (⇒リピーターへ)**

### ③ モデルコースの提案と宣伝・情報提供について

「まず国東を知ってもらう」  
= 「大人の修学旅行」1泊2日モデルコース

大人の修学旅行

- 大分空港発、最終的には別府、湯布院へ
- 国東の魅力「食」「六郷満山」「景色」をセット
- 「歴史」「昭和」「自然」を体験
- 年齢設定: シニア層 (+若者も)

「参加者から情報提供」  
⇒ 未経験者が行きたくなる、リピートする

「知名度が低い」のカバー

- 資源ではなく、「修学旅行」というキャッチーなコンセプトを前提として SNS 投稿などを前提として SNS 発表(Instagram)

「宣伝能力」「自治体間連携」のカバー

- 「ツアー」として**一体的な商品・地域宣伝の**実施
- ツアーをPR、関心を持ってもらい、地域に定着

「公共交通で観光周遊困難」のカバー

- ツアー化してバスで運営
- 将来的には、公共交通体系の整備を提案

### ④ モデルコースの先への提案—リピーター対策

**リピーター対策 = 自由に回遊するには?**

空港連絡バスのルート変更  
⇒ 六郷満山、杵築市街等を経由  
宿泊地別府・湯布院への直通アクセス

【課題】  
本来の空港アクセス利用者の時間がかかる  
需要・費用・運転手対策  
⇒ 既存ルートの改良は小規模が限界  
路線バス・乗合タクシーの必要性

**PR活動**

インパクト対策の動画配信 ⇒ 六郷満山等のPR

年齢層で異なる SNS の利用度・観光目的に対応

10-20代

をメインに食べ物の写真・情報をアップ!!

30代以上

をメインに自然・風景の写真・情報をアップ!!

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

大分県観光地や中心部商店街における多言語表記調査及び多言語による表記の実態について / 大分大学 / 准教授 包 聯 群  
 一別府市地獄めぐり温泉・その周辺と大分市中心部商店街を主として

平成 29 年度「言語景観」、大分市内・別府市内の中国語の実態 2018 年 1 月 15 日 包ゼミ (大分大学 経済学部経済学研究所)

## 多言語表記一言語景観

大分市街地と別府市内の中国語表記の実態

包ゼミ (大分大学 経済学部)  
 2018年01月15日

### 調査概要

- グローバル化が進む現在、観光客として中国人が年々増加しているのは大分県も例外ではない。
  - そのため私たちは日ごろ中国語と向き合っている包ゼミとして大分駅、別府を対象に調査を行った。
  - 調査内容は、増える中国人観光客に対してどのような取り組みがされているかを確かめできる限りの改善である。
- 7月10日からの全5回にわたって行い、休日や空き時間を利用しての調査となった。調査は包ゼミの3年生9人が中心となり、4年生と留学生も参加したことがある。



#### <別府駅>

別府市は外国人にとって認知度が高く、外国人観光客が多いことや、地獄めぐりなどの観光地が多いことから、各観光地のパンフレットの言語の種類が豊富である。

この2つの駅の共通の問題点・改善点として、中国語表記の不十分さが挙げられる。原因としては、各駅とも公の目につく表記に対しては日本人の需要を一番に考え、外国人の需要に対しては観光案内所で直接対応するという姿勢がとられていることが挙げられる。→それでは手間がかかるためガイドブックを用意。

#### 地獄めぐり



「順路」と書かれ、案内されているが、中国語で「順路」とは「寄り道」という意味を持っている。そのため、誤解し地獄を見落としてしまう可能性を生む。



温度は約95度と高温であるにも関わらず危険を知らせる表示が日本語のみになっている。左にある写真のように、地獄を説明するものも中国語表記は見られない。



鬼石坊主地獄 白池地獄 かまど地獄 料金表



龍巻地獄: 誤字や中国語の文法が間違っている掲示板。

### プロジェクト事業の目的・目標

- 主要観光地や商店街における看板の中国語(簡体字・繁体字)表記の実態調査・「表記実現(あるいはパンフレットの作成)」を目標とする。
- 観光客に向けた言語サービスの利便性の向上により、更に多くの観光客を呼び寄せ、過ごしやすい環境づくりに貢献する。
- 大分県の観光情報を積極的に発信、国際性や観光地としての魅力をさらに引き出し、まちづくりに貢献する。
- 実践活動に参加することにより、社会への適応能力を向上できる。

### 調査実態:大分駅・別府駅



大分県の中心にある大分駅と外国人の間で認知度が高い別府駅の2つの駅を比較した。

#### <大分駅>

ハブ的な役割を大きく果たしており、大分駅から別府、湯布院といった観光地への移動の際に多く利用される。多言語表記は多く見られ、英語、韓国語表記が多く占める中に所々中国語表記が見られる。しかし、注意書きは日本語表記のみである。

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

大分市判田校区における健康づくり応援プロジェクト / 大分大学 / 助手 梶島 千穂

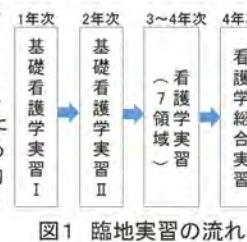
## 大分市判田校区における健康づくり応援プロジェクト

大分大学医学部看護学科  
 (看護学科4年)朝見和 岩永章太郎 大飛瑞希 兼次琢磨 堀明日香 松田美紗希 御手洗莉穂 宮崎愛海  
 (地域看護学) 梶島千穂 後藤奈穂 志賀たずよ 井手知恵子

### 概要

● **背景**  
 本学医学部看護学科では、4年次に最終的な臨地実習として「看護学総合実習」を行っている(図1)。地域看護学領域の総合実習では、平成15年から大分市判田校区をフィールドとして、地域住民の協力のもと、学生がサロンや老人クラブ等の地区での活動に参加しながら看護を展開してきた。長年の経過の中で、総合実習の前後に学生や地域住民の希望により、学生が積極的に地域に出向き、地域住民と協働して健康づくりに向けた活動を行うなど継続的に支援している現状がある。

● **目的**  
 本プロジェクトは、総合実習期間外の学生の自主的な活動をさらに活性化させることで、これまで以上に、学生が地域住民の生活の実態を知ることや地域住民との協働により出会った住民や組織等の健康問題を解決することを目的とした。また、これらの活動を通して継続的に判田校区の健康づくりをサポートすることを目的とした。



「看護学総合実習」とは臨地実習の最終的な実習として4年生の9月に実施している。学生自らの課題意識に基づき、実習のフィールドを選択して主体的に計画・実施・評価し、これまでの学びの統合や看護職としての基礎的な専門能力を養うことを目的としている。

### 事業内容

- **時期** 平成29年4月～10月
- **実施場所** 大分市判田校区
- **参加学生** 看護学科4年生 8名
- **協力機関** 大分市保健所 判田校区公民館 判田校区老人クラブ連合会 判田校区民生委員児童委員会など
- **内容** 判田校区公民館を拠点に活動 学生がひとり3～5地区を担当して(民生委員の担当地区を参考に地区割り) 民生委員や老人クラブ会長を窓口として地区での活動を実施

表1. 事業スケジュール

| 日時             | 内容   |
|----------------|--|
| 4月4日           | 学生オリエンテーション①   |
| 4～6月           | 関係機関との打ち合わせ・協力依頼   |
| 6月3日           | 学生オリエンテーション②<br>・準備状況・今後の予定を説明<br>・担当地区、担当業務の最終決定        |
| 8月17日          | 関係機関への協力依頼<br>判田公民館に学生紹介ポスターを設置                          |
| 8月20日<br>8月23日 | サロン参加・健康教育実施<br>・さくら会<br>・ながいきサロン                        |
| 9/6～9/15       | 公民館拠点にして実習<br>・ロビーで健康相談<br>・担当地区での活動に参加<br>・担当地区での看護活動展開 |
| 9月末            | 判田公民館 健康相談の報告作成・掲示依頼<br>ながいきサロン 認知症予防体操媒体届け              |
| 10月            | お礼状作成・送付   |



図2 大分市判田校区と学生の担当地区

#### 光永・戸無瀬地区

【実習前】  
 ●ながいきサロン(高齢者サロン)への参加  
 健康教育「認知症予防体操」

【実習中】  
 ●ながいきサロンへの参加  
 健康教育「認知症予防体操」  
 健康相談(血圧・体重測定 個別相談)  
 ●家庭訪問(民生委員・サロン代表者・高齢者)

【実習後】  
 ●ながいきサロンへ  
 認知症予防体操の媒体作成  
 毎回サロンで認知症予防体操してもらおう!  
 手順ポスター + CD作成

(住民の声)脳トレ続けたい。血圧測定や健康の話題聞く機会あまりない。次のサロンでも講話と健康相談してほしい。

(住民の声)毎月サロンの内容考えることが大変。学生が紹介した体操続けたいけど、家で一人だと難しいなあ。

#### 判田台地区

【実習前】  
 ●さくら会(高齢者サロン)への参加  
 健康教育「みんなで楽しくいきいき長生き」

【実習中】  
 ●老人クラブへの参加  
 ●家庭訪問(老人クラブ会長・高齢者)など

(住民の声)学生がくると元気が出る。実習で来るのも待ってるよ。

#### 判田校区公民館(活動の拠点)

【実習前】  
 ●学生紹介ポスターの設置

【実習中】  
 ●健康相談 計8回 利用者のべ104名

【実習後】  
 ●健康相談結果の掲示

(住民の声)今年も学生さんが来る時期だったね。せっかくだから血圧測ってほしいな。

(住民の声)去年も学生の健康相談を受けた。あれから食事に気をつけるようになったよ。

住民の方に結果を報告することで、今後も自身の健康づくりに関心を持って欲しい!!

#### その他の地区

- 地区の活動に参加 (老人クラブ・高齢者サロン・運動教室・ゲートボール等)
- 出張健康相談・健康教育
- 家庭訪問 など

### まとめ

総合実習前後の学生の活動を本プロジェクトとして位置づけたことで、例年以上に活発に判田校区の地域住民との協働活動が展開できた。学生と地域住民と一緒に困りごと等の解決策を考え行動したことで、それぞれの地区や住民個人々の健康問題の解決に寄与できなかったのかを考える。また、一連のプロセスを通して、学生は、担当地区への愛着を持つとともに看護の責任を実感していた。

本プロジェクトを通して、各地区の健康課題とそれに対する継続支援の方針が見出されてきている。今後も、学生と住民が築いてきた協働関係や地区の健康課題とその支援方針を引き継ぎ、判田校区の実情に応じた健康づくりへの支援を継続していきたい。

### 調査結果

料金表示や施設案内、注意標識、トイレなどの様々なところに外国語表記の標識があったが、使われている言語が場所によって違い、意味は通じなくてもいいが、文法的に正しいとは言えない表記のものもあった。

中国も漢字を使うが、日本と同じ漢字でもすべてが日本語と同じ意味で使用されているわけではないため、安易に日本語の漢字で代替すると、中国語圏の人々には伝わりにくいという問題がある。また、中国語の表記の問題にしても中国語の漢字を繁体字で表記するのか、簡体字で表記するのかといった課題も考えられる。

### 成果

#### ●パンフレットの作成

多言語表記において、中国語の対応はまだできていない部分が多く見られる。したがって、私たちゼミ生はパンフレットを制作した。これによって中国人観光客への利便性を向上させ、地域の活性化に貢献できた。

#### ●今後の改善に提案

誤字や脱字、翻訳の間違いなどを指摘することができた。今後のサービスの向上に繋がった。

以上のように、言語景観調査を行い、みなさんが積極的に取り組むことで自分たちの成長に繋がりを、また地元にも少し貢献できたと考えている。

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

地域の環境活動に取り組むNPOと連携したコミュニティ・リーダー育成プログラムの開発 / 大分大学 / 教授 財津 庸子

## 地域の環境活動に取り組むNPOと連携した コミュニティ・リーダー育成プログラムの開発

大分大学 教育学部 財津 庸子・都甲由紀子・川田菜穂子・大野 歩

### プロジェクトの目的

地域に根ざし、地域の生活課題の解決のために活動している環境NPOと大学生が連携して活動を行うことにより、次世代のコミュニティ・リーダー育成のためのプログラム開発

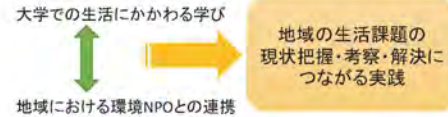
具体的には、おもに生活に関する学習をしている大学生たちが、大学で学んだことを基盤として、実際に地域で活動しているNPOとともに、生活課題解決の具体的なプランを検討・作成・実施し、自ら検証し改善するというサイクルを体験することによって、コミュニティ・リーダーとしての資質を育成する

### NPO「アースデイ中津」の活動状況

■環境イベントとしてアースデイ中津を10年開催  
 ・本年のアースデイ中津の成果  
 ・ゴミゼロイベントの成果: 会場のゴミは20L袋1個分  
 ・当日参加者 県内外より 延べ20,000人超  
 学生ボランティア  
 3高校より40名・2短大と2大学より140名

・2017年11月 活動拠点となるコミュニティ・カフェ山望庵開業

### プロジェクト概要



実践1: 事前学習(研修・講演会参加)  
 実践2: コミュニティカフェでの実践・地域の方々との交流  
 実践3: ふりかえり会

### 実践1 事前学習

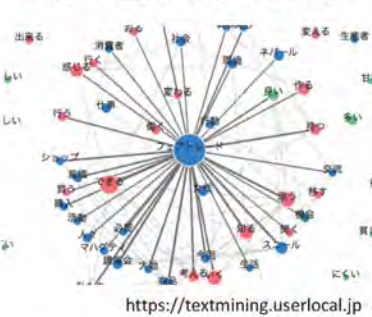
実施日 2017年8月10日  
 場所 フェアトレードショップ大分および南部公民館  
 実施内容 ネパールのフェアトレード団体代表 スモール・チトラカール氏との交流会 講演会への参加

アースデイ中津およびフェアトレード大分の代表の活動内容を講演会を通して知り、地域における消費生活の現状の課題を知る。国際的な視野に立った消費生活の課題について知り、自分たちの生活の中でできることを見出す機会とする。



### 8/10の交流会および講演会参加の感想

#### テキストマイニング 共起ネットワーク



フェアトレードは、貧しい人たちだけではなく、社会と消費者、環境にも利益があり、素晴らしい活動であることを改めて知ることができた。持続可能な社会をつくる役割があり、経済的、社会的平和を目指し、自分自身ができることからやっていきたい。

日頃の生活の中でも、だれが作ったのか、どうやって作ったのかに関心を持つことが良い消費者につながると思う。発展途上国の困っている人のために何が出来るかではなく、自分が何をしたいかを考えそれを口に出し発信していくことで、その考えや行動はどんどん広がっていくと思う。

### 実践2 コミュニティ・カフェにおける活動

実施日 2017年11月18日  
 場所 コミュニティ・カフェ山望庵  
 実施内容 コミュニティ・カフェの意義に関する講演会への参加 「コミュニティ・カフェのニーズと可能性」 川田菜穂子 山望庵ランチを食べながら、参加者と交流・カフェ探索 企画参加: 糸より体験・子どもへの読み聞かせ・風呂敷 グアテマラの生活文化のミニ講演など

コミュニティ・カフェの地域における意義を知る。大学での学びを活かした活動をする。



### 11/18の活動レポート

#### テキストマイニング 共起ネットワーク



今、学生の存在が地域で求められているということが川田先生のお話と山望庵の方のお話からわかった。地域のネットワークづくりにもつながるコミュニティカフェの利用者が、決まった年代、性別、職業の人だけでは非常にもったいないと感じた。そのため、私たちのゼミ活動で企画して学生主体のコミュニティカフェや子ども食堂などを開いてみたいと思った。

学生が主体となって運営することで、より幅広い年代の人間同士がコミュニケーションを取ることができるのではないだろうか。コミュニティカフェが果たすことができる地域での役割はさらに多くあると感じた。実際に訪れるだけでなく、今度は協力する立場として関わってみたいと思う。

### 成果と課題

<成果>  
 フェアトレードショップや環境NPOが開業したコミュニティカフェを訪れ、実際にヒトとモノとふれあうことにより、ふれあったこと自体による理解の深まりとともに、地域における自分たちの日常生活への課題の広がり深まりが認められた。さらに理解が深まったことにより、他者へ発信しなくてはならないという意識の高まりもみられた。

<課題>  
 今回は「地域の方々との意見交換や交流」を通して理解や意識の高まりはある程度できたが、「地域の消費生活における課題を理解する」までは、今後本実践を進め、「地域の方々との協働して課題を解決」したり、コミュニティカフェで活動を行うステップへと向かうよう活動継続していきたい。



### 実践3 ふりかえり会

日時 2017年12月16日 16時~18時  
 場所 大分大学 教養教育棟 共用演習室3-1  
 参加者 アースデイ中津代表 須賀美子氏 フェアトレード大地代表 須賀留美子氏 PJ参加の学生・教員

内容概要  
 須賀氏より: 開業後の状況と今後の展開について  
 学生との意見交換ではレポートへのコメントや有効な情報発信のあり方、コミュニティカフェという場の意義(多様性の価値等々)など

# <学生による地域ブラッシュアッププログラム2017>

大分観光バーチャル体験プロジェクト2017 / 大分大学 / 教授 古家 賢一



## 大分観光バーチャル体験プロジェクト

(VRのデモがありますので是非、体験して下さい!)

大分大学 大学院 知能情報システム工学コース  
 尾崎雄大, 山中雄太, 堀江有仁, 有吉大樹  
 工学部 知能情報システム工学科  
 葉師寺修平, 村田幸弘, 東大輔, 大峯隼人, 黒木一磨, 後藤光貴, 和田悠登



### 概要

- 様々な分野からVR技術に注目が集まっている  
**VR(バーチャルリアリティ)**: 人間の感覚器官に働きかけ、現実ではないが実質的に現実のように感じられる環境を人工的に作り出す技術の総称
- 近年、VR技術が手軽に体験できるようになった  
 例) PlayStation® VR、VRお化け屋敷、youtube
- 20代~60代までの男女1,207名を対象にVRに関する調査を行った中で**最も体験したいVRコンテンツは「観光」**であるという結果が発表された(株式会社Viibar調査, 2016)



目的  
 VR + 観光 + 大分

大分大学でのVR技術の研究を生かして  
 大分県竹田市の観光スポットを対象とした  
 大分観光バーチャル体験コンテンツの作成

### 竹田市地元企業、自治体との意見交換

#### 参加団体

- ・商工観光課 様
- ・観光ツーリズム協会 様
- ・まちづくりたけた株式会社(アグル) 様



#### 6/26活動計画打ち合わせ

- ・撮影場所の提案
- ・竹楽撮影
- ・タイムラプス撮影
- ・ストリートビュー

#### 10/20意見交換

- ・画質の改善
- ・普段の見られないもの
- ・風景中心にしてほしい
- ・トランジションの改善



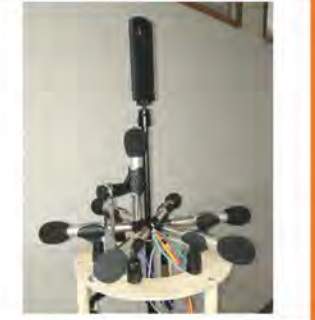
### 撮影に関して気付いた点

- ・フル充電してもバッテリーが持たない → モバイルバッテリーが役に立った。
- ・連続稼働で端末等がかなり熱くなる → 冷やす方法を考える。
- ・モバイルバッテリーの個体差のためか、急速充電がTHETAに対応しなかった。
- ・スリープモードの設定はアンドロイドではできないが、iOSではできた。
- ・Wi-Fiの接続がうまくいかなかった → 端末の問題が考えられる。
- ・夜の撮影は暗すぎて、静止画でも動画でも竹が見えなかった。
- ・シャッタースピードの設定を変えて洞窟内をきれいに撮れた。
- ・白水の滝は水対策が必要だった。

### VR撮影機材

立体音響用マイクroh-Aレイ(試作)  
 360度兼音用に作成した  
 8チャンネルマイクroh-A

全天球映像用カメラRICOH THETA S V  
 スマートフォンでの遠隔操作にて録画を行う。



### VRコンテンツ編集

- ・映像と音声の同期
- ・必要な場面の抽出
- ・Youtube用VR動画への変換

#### 作業風景



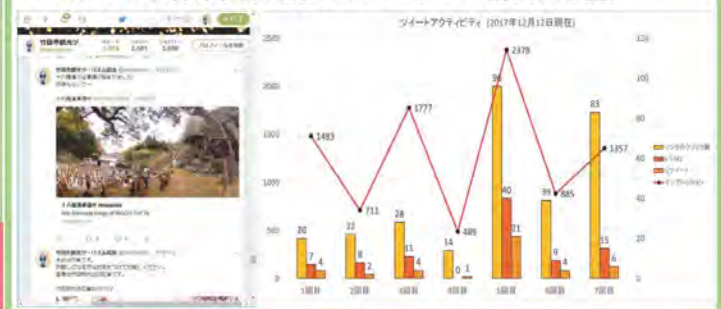
- ・立体音響の導入  
 空間的に音源を配置  
 +  
 頭の回転に合わせて音が追従  
 ↓  
 臨場感の向上



### 竹楽(祭り)と観光スポットの撮影



### Twitterによる竹楽実況(竹田市ツーリズム協会と連携)



### 今後の進め方

- ・意見交換でもらった意見をコンテンツに反映する。  
 → タイムラプス、ウォークスルー
- ・新しいコンテンツの検討

# <おおいたプロモーションプログラム2017>

「生きがいのある暮らしを創るデザインワークショップ」(第1講座) / 大分県立芸術文化短期大学 / 専任講師 松本 康史  
 「生きがいのある暮らしを創るデザインワークショップ」(第2講座) / 大分県立看護科学大学 / 教授 濱中 良志  
 「生きがいのある暮らしを創るデザインワークショップ」(第3講座) / 日本文理大学 / 特任准教授 市田 秀樹



## 生きがいのある暮らしを創る デザインワークショップ

Happiness Long Life Open-innovation Workshop

「ヒト」の暮らしは、「モノ」に支えられ、豊かになってきました。しかし、今、人口減少や超高齢化社会、資源の減少や環境の変化など、「ヒト」の暮らしを取り巻く社会の劇的な変化の中では、「ヒト」と「モノ」の関係を捉えなおす時が来ています。  
 「生きがいのある暮らしを創るデザインワークショップ」では、超高齢化社会における暮らしの質の向上を目指して、それを実現するために必要な「モノ」について、多様な背景を持つ人々が集まり、ダイアログを通して、その可能性と「ものづくりにチャレンジするワークショップ」です。

大分県立芸術文化短期大学 講師 松本康史  
 日本文理大学 工学部 特任准教授 市田秀樹  
 日本文理大学 工学部 教授 池畑義人  
 大分県立看護科学大学 教授 影山隆之  
 大分県立看護科学大学 教授 濱中良志  
 大分県立看護科学大学 准教授 伊東朋子  
 大分県立看護科学大学 助教 樋口幸  
 大分県立看護科学大学 特任助教 平井和明  
 大分県立看護科学大学 助手 麻生優志  
 大分県立看護科学大学 助手 佐藤栄治  
 (医)敬和会 大分リハビリテーション病院 森淳一  
 (医)敬和会 大分リハビリテーション病院 衛藤恵美

<連携>  
 シェルエレクトロニクス株式会社  
 大分県医療ロボット機器産業協議会

# <おおいたプロモーションプログラム2017>

看護の視点からのものづくりと知的財産 / 大分県立看護科学大学 / 教務学生グループ 浜松 弘一

## ～地方創生大学等連携プロジェクト支援事業B～ 看護分野での産官学連携と知財活用セミナー

影山隆之, 浜松弘一 (大分県立看護科学大学)

### 事業目的

産官学連携による看護の視点からのものづくりの取組をからのものづくりの取組を加速するため、医療・介護施設、製造業、大学関係者の人材育成を図るとともに、関係者間の交流を深める。

### 事業概要

**日時** 平成29年12月9日(土)13:30～16:30  
**場所** 大分県立看護科学大学(大分市大字里栖野2944-9)  
**参加者** 医療・介護施設、ものづくり企業、大学、行政関係者等 26名

### プログラム

**開会行事** 大分県立看護科学大学 学長 村嶋幸代による開会挨拶

### 講演 1

**演題:**「ありがとう」が生まれる医療現場～身近な知的財産権～  
**講師:** 森 順二氏(株式会社トライテック 取締役技術開発部長兼経営企画室長)

### 講演 2

**演題:**知的財産、何でも相談窓口  
**講師:** 佐々木 俊司氏(大分県よろず支援拠点 コーディネーター)

### 主な講演内容及び提言等

- ・知財には特許、実用新案、意匠(デザイン)、商標(トレードマーク)等があり、まずは知財を身近に感じることが大事
- ・医療現場で働く人はまずは知財を意識することが必要、意識することでもの見方が変わっていく。
- ・日頃から知財を意識したメモを取る→シゴトの延長上に現場ニーズ
- ・現場ニーズがあれば、解決策が思いつかなくても、企業と連携して解決→製品開発・事業化
- ・知財では「公知」に注意 アイデアが浮かんでも他人に言わない→まずは出願
- ・事業プランを固めて、知財を戦略的に活用した事例紹介(アイスクリーム、貼ってはがせる素材のスケール等)

**司会:** 大分県立看護科学大学 看護研究交流センター長 影山隆之  
**発表者:** トクソー技研株式会社 代表取締役社長 徳永修一  
 中津家具株式会社 代表取締役社長 永岡侍紹史

### 主な内容

- ・本学が参画している産官学共同研究による取組の2事例について
- ①看護・医療機器開発ワーキンググループによる「ベッド上体重計」(ベッド上で測定可能な体重計)の研究開発  
 →大分県立病院ニーズ探索交流会から始まった研究開発の取組状況について
- ②高齢者が楽しく食事・会話ができる木製椅子の開発  
 →2017年度グッドデザイン賞受賞

### 講師からのコメント

- ・知財は取得するのが目的ではない。公表を前提として開発している例もあるが、内部の基本的な構造は公表せず、権利化を考えた方がよい。
- ・特許制度の基本的な仕組みを理解したうえで、対応を考えること。
- ・知財の防御のためには開発のメモ、実験データのデータを公証人役場に持っていき、確定日付を取得しておくこと
- ・意匠を取っていることで、デザイン力や技術力のアピールになる。意匠を上手に使ってあげれば宣伝効果が大きい。

### 参加者からの質問・意見及び関係者コメント

- ・商品のブランド化や他社が参入できないようにする工夫
- ・グッドデザイン賞の取得や維持に要する費用→通常、年間20万円程度要するが、産官学連携事業による申請の場合、維持費は発生しない。また、取得費用の支援も得られる可能性もある。
- ・製品のアイデアの事業化に至るプロセスや手法や行政、関係機関の窓口→補助金の窓口である大分県産業創造機構に相談し、産官学のグループ化等は産業科学技術センターがコーディネート

### 参加者の感想

- ・医療従事者からの現場ニーズにより新製品の開発につながるということ、ナースが起業できることを知り、前向きになった。
- ・大学との共同開発や知財戦略の実例を知りたい。
- ・アイデアを実際に商品化していきたいと感じた。

### 事業成果、今後の展開

- ・産官学連携による製品開発の取組や手法、関係機関のグループ化、開発の各ステージにおける知財の取扱いや留意する点について、関係者の知識・理解が深まった。
- ・看護現場とのものづくり企業、行政、大学の連携強化を通じ、産業振興による地域活性化が期待できる。

# 〈おおいたプロモーションプログラム2017〉

生物多様性と地域資源に関するワークショップ～最新の研究から見てきた地域の宝物「中津干潟」の現在と将来～ / 日本文理大学 / 教授 池畑 義人

## 生物多様性と地域資源に関するワークショップ

～最新の研究から見てきた地域の宝物『中津干潟』の現在と将来～

日本文理大学 工学部 建築学科 池畑義人

はじめに 中津市は中津城や青洞門を有し、福沢諭吉を輩出した歴史の町として知られているが、一方で中津市には、その沿岸部の大部分を占める広大な干潟があり、そこにはカブトガニやアオギスなど希少な生き物が数多く生息していることは、あまり知られていない。しかし、周囲の開発行為によって年々干潟の面積は減少し、保全がなされていない沿岸部の松林も立ち枯れが目立ち、乱獲によって貝類などの水産資源は激減していることから、このまま策を講じなければ近い将来に自然環境は復元不可能なダメージを負ってしまい、漁業資源は枯渇することが懸念されている。しかしながら、行政、自然保護団体、漁業関係者など干潟を巡る利害関係者間での意見は一致せず、干潟再生の対策は宙に浮いた状態になっている。一方で群馬大学、九州大学、水産大学校、日本文理大学など大分県内外の大学が、中津干潟を研究フィールドとして様々な研究を進めており、着実に研究成果を出し続けている。

そこで本プロジェクトでは、中津市に在住している小中学生を含む一般市民および行政機関職員を対象として、中津干潟をフィールドとする各大学の研究者が最新の研究動向を紹介することで、中津干潟が地域にとって大切な宝物であることを理解してもらうことを目的としている。また、地域資源としての中津干潟の将来について、ワークショップ形式で討論することで干潟と自らの関わりを考えるきっかけ作りとする。

### プログラム

10:30～12:00

学生を対象にした干潟観察会・ワークショップ



13:00～ シンポジウム開会

13:40～14:00 足利由紀子 (水辺に遊ぶ会 理事長)

中津干潟の現状について



14:00～15:00 中津干潟をフィールドとした研究活動の紹介  
池畑義人 (日本文理大学)

中津干潟の土砂の需給バランスに関する研究

南條楠士 (水産大学校)

中津川の汽水域におけるマクロベントス群集の構造

山下奉海 (九州大学)

五十石川における民官学協働による川づくりの紹介



15:00～16:00 学生発表会

蛍光X線分析による中津干潟の土砂動態の研究

舞手川河口における経年的地形変化に関する研究

砂浜性小型底生生物であるニホンスナハマトビムシおよびヒメスナホリムシの生活史

山口県西部の土井ヶ浜と赤田浜における魚類群集構造

大新田海岸における肉食性巻貝と二枚貝の分布



16:00 閉会

今後の展望 このシンポジウムを契機として、中津干潟をフィールドとする研究者の情報交換の場として『中津アカデミア』が結成された。平成30年3月4日に中津市において最初の発表会を開催する計画を推進している。

# 〈おおいたプロモーションプログラム2017〉

「超」仕事力実践特講 第1講アマゾンのカリスマバイヤーこと「伝説の社員」が語る、大分で、人生で、成功する仕事力 / 大分県立芸術文化短期大学 / 専任講師 安倍 尚紀  
「超」仕事力実践特講 第2講漫画「エンゼルバンク」のカリスマ転職代理人が語る、幸せを引き寄せる、大分でのキャリアの歩み方 / 大分県立芸術文化短期大学 / 教授 吉良 伸一

2018年1月15日(月) 於 大分大学

大分県立芸術文化短期大学  
OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE

## 地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B

### 「超」仕事力実践特講の射程と実施報告:

第1講: アマゾンのカリスマバイヤーこと『伝説の社員』が語る、大分で、人生で、成功する仕事力!  
第2講: 夢のあきらめ方/マンガ・テレビドラマ『エンゼルバンク〜ドラゴン桜外伝〜』のモデルとなった、カリスマ転職代理人が語る、幸せを引き寄せる、大分でのキャリアの歩み方

安倍尚紀\*, 吉良伸一\*, 北尾洋二†, 成田誠‡

\*大分県立芸術文化短期大学・情報コミュニケーション学科  
†株式会社ザ・メディアジョン・リジョナル/内閣官房  
‡株式会社日本政策金融公庫・高知支店

Contact : n-abe@skyudai.jp

-概要-

本報告は、地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 Bとして採択いただいた「超」仕事力実践特講の事業内容について、成果と今後の展開を含めて提示するものである。「仕事力実践特講」とは、大分県立芸術文化短期大学の地域活動(通称: サービスラーニング)に従事し、著者らが関わって2013年度から立ち上げた情報コミュニケーション学科の看板講義科目である(活動内容等について詳しくは筆者らがこれまでで公開してきた論文を参照)。今回、「地域」と「大分」を切り口として、本プロジェクトを展開した。

### 1 「超」仕事力実践特講の射程 Scope of the project

2017年7月21日のYAHOOニュース「短大水戸期サバイバルへ青山学院女子短大募集停止でどうなる?」において、「仕事力実践特講」は先進的な講義として紹介された。下の写真のように、「スマホ禁止」ではなく「スマホ推奨」という試みもある(twitterによる即時のフィードバック/記録のため)。必修講義ではないにもかかわらず毎年80名〜100名(学科1年生の8〜9割)が受講する、大分芸短大・情報コミュニケーション学科の看板科目となっている(著者の一人北尾洋二が担当)。プロジェクト支援事業Bとして「地域」と「大分」の切り口から展開するに当たり、以下の目的を定めた。

目的 現代社会で「はたらく(働く)」の意味において、その「あり方」と「やり方」を本質から理解し、将来に拡がる卒業後の多様な道路(就職、進学・編入学間等)や仕事を、主体的に選択し決定する力を養う。

「仕事力」とは 21世紀も15年以上が経過し、さらに混迷を深める世の中において、社会人として活躍するためには、高校生活までの勉強法や枠組みとは別の考え方や習慣を身に付けることが必要となる。これが、この講義における「仕事力」の定義である。最新情報から現場の第一線で活躍する経営者及び産業人の生の声に至る実践型の講義により、「仕事」に関する様々な考え方に触れ、受講者の将来の就職活動及び人生設計に役立てることが、本講義の到達目標である。受講対象として、大学生及び若手社会人を想定し、地域(大分)で活躍する上での、自己肯定感と自己有用感を醸成したい。

### 2 実施の前提 Present Situation of Oita Prefecture

全2回の講義(実際には、ディスカッション回を含めて3回実施)は、平成29年7月に広報の手配及び準備を開始し、10月中旬〜下旬に開始した。



第1講(写真左) 「アマゾンのカリスマバイヤーこと『伝説の社員』が語る、大分で、人生で、成功する仕事力!」とした。講師は、数々のベストセラーを仕掛け、「カリスマバイヤー」出版マーケティングコンサルタントとして著名な土井英司氏を招聘。

第2講(写真右) 「夢のあきらめ方」『エンゼルバンク〜ドラゴン桜外伝〜』のモデルとなった、カリスマ転職代理人が語る、幸せを引き寄せる、大分でのキャリアの歩み方とした。株式会社ニッポン代表取締役、株式会社リクルートワークス研究所 特別編集委員の海老原剛生氏を招聘した。

大分県出身者による第3講 上記の2回は東京を拠点に全国で活躍する講師であるため、補足的に、その前段階の第3講として、大分県をベースに活躍する若手起業家を講師に迎え、「地元で働くこと」に関する、受講者を交えたディスカッション主体のワークショップを開催した(2017地元で活躍する先輩たちに直接聞ける(就活に失敗しない方法))。講師は、中西理(麻酔科医)、佐藤みき(竹田市議会議員)、麻生隆一郎(有限会社麻生醤油醸造場 代表取締役)、安部善徳(有限会社エコー印刷専務取締役)。

### 3 実施結果と考察 Result and Reflection of the project

3.1. 第1講 11月1日(水)16:15〜19:35、芸短大人文棟102にて、グループディスカッション「地元で活躍する先輩・パネラー経営者に直接聞く!」をキャッチフレーズとして開講。53名が参加した(芸短生41名、学外12名)。まず、当日3名となったパネラーによる個別ミニ講演10分×3人(自己紹介兼)の後、全体を3つのグループに分割し、パネラーへの質問を中心としたグループディスカッションを実施。5分ずつすべてのパネラーに質問できるようにローテーションを前提として、感想書き出し(5分)→グループごとのまとめ報告(5分)を3セット実施した(卒業生が司会役)。大分県という文脈において、なんらかの選択をすべきときに参照すべき判断材料が議論された(離職率の高さ、県内就活への備え、アルバイト、自己分析、仕事の転機、事業承継、職場での人間関係、公務員、想定外の配属他)。

3.2. 第2講 2017年11月11日(土) 14:00〜16:00、芸短大人文棟102にて開講。64名が参加した(芸短生36名、学外28名)。世界を見据えた視点で、大分県民同士の付き合いは、気づきにくい「当たり前」のことが競争優位性になるかもしれない等、指摘があった。後半40分は質問を中心に行進したが、アンケートによるフィードバックには、戦略的な視点から勇気付けられることによって、自分のキャリアを直すことができたという意見が多数あった。

3.3. 第3講 2017年12月9日(土) 14:00〜16:00、芸短大人文棟102にて開講。45名が参加した(芸短生31名、学外14名)。経営者を中心とする多くの先人の事例を交えながらも、自分の夢に関するランボルシート(具体化/因果関係を追求していく)を記入するワークショップを交えながら進行したのが特徴的だった。第1講と連続受講した学生のアンケートによると、「前回と関連の内容でシビアだった」という意見も見られた。

3.4. まとめと考察 筆者らが中国・四国・九州地方の大学・短大生を514名を対象に、就職の「地元志向」について実施した調査のデータをみてみよう(安倍他2017)。

福岡県など比べて大分県では、(1)「何から手をつけてよいかわからない」等、キャリア支援に関して漠然とした不安を抱く学生が多い(上のグラフ)。また(2)就職先の企業を決定する際、福岡県の学生が最も重視する「能力や個性を活かせる」よりも、「会社の雰囲気が合っている」、「休日がしっかり休める」、すなわちプライベート生活の充実を重視する学生が多い。

本プロジェクト全体を通してみると、上記調査結果(1)で多かった「企業を求める人物像」というのは、だれでも当てはまるような抽象的で大まかな人物像が多く、学生からすると漠然としすぎていて「わからない」という典型的な不安に対処しつつ、上記(2)についてワークショップや直接的な質問を通じて考え直す機会を提供できた点と考える。この成果を一回の講義で終わらせるのではなく、何らかの形でアーカイブ化し、大分県の地域振興に貢献していければと考える。

Reference  
安倍尚紀, 北尾洋二, 成田誠, 2017, 「『地方創生』・『グローバル人材育成』を推進した大分県立芸術文化短期大学の取組と効果 ―中国・四国・九州地方でのアンケート調査結果をもとに―」, 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』, 第54巻, pp.109-134  
安倍尚紀, 2017, 「『レッズ』並立ランタン大学への就職指導プログラムの設計と実践 ―サービスラーニングを軸とした大分県立芸術文化短期大学の取り組み―」, 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』, 第54巻, pp.145-166  
安倍尚紀, 北尾洋二, 成田誠, 2016, 「地方創生の中小企業における新卒学生採用促進活動のあり方に関する研究 ―中国・四国・九州地方の大学生へのアンケート調査結果から―」, 『情報科学教育研究』, 6(2), 2016-2017, 1-10  
安倍尚紀, 成田誠, 2015, 「大分県産業界における産学連携とサービスラーニング ―就職コンサルティングに焦点を当てた2010自分戦略デザイン大学の取組―」, 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』, 第53巻, pp.20-46  
安倍尚紀, 2015, 「マレーシアと日本におけるIntercultural Learning and Community Engagement (IL/COM)プログラムの展開 ―国際学と地域創生プログラムを軸とした―」, 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』, 第53巻, pp.195-213  
安倍尚紀, 菅原伸一, 成田誠, 2014, 「大学生の就職活動と職業観をめぐって(つづき) ―ドッキング―」, 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』, 第51巻, pp.85-104  
安倍尚紀, 2014, 「マレーシア・クランタン州におけるIntercultural Learning and Community Engagement (IL/COM)プログラムの試み ―短期留学でのインターンシップ・ネットワーキング・サービス (SIN) を活用したサービスラーニングにもとづいて―」, 『大分県立芸術文化短期大学研究紀要』, 第51巻, pp.71-84

地方創生大学等連携プロジェクト支援事業 B

# 藻谷浩介と語る 観光立国の行方・大分

大分県立芸術文化短期大学 国際総合学科 講師 山口祥平

本事業の目的

本事業では、講師として転換期における日本社会の新たな方向性を提案する著作「デフレの正体」「里山資本主義」「観光立国の正体」(山田桂一郎氏との共著)を発表する藻谷浩介氏を招聘する。全国各地の取組を縦覧してきた藻谷氏の視点から大分県の芸術文化事業・観光事業の課題と展望について検討する。

実施概要

日時 2017年7月1日(土) 13:00-14:00

会場 ホルトホール大分 408会議室

参加費 無料

対象 芸術文化事業関係者 観光事業関係者 学生

定員 30名(要事前申込)

講師 藻谷浩介(株式会社日本総合研究所・主席研究員)

聞き手 三浦宏樹(大分県芸術文化スポーツ振興財団・参与)

コーディネーター 山口祥平(大分県立芸術文化短期大学・講師)

プログラム

- 13:00 開会(コーディネーター:山口祥平)
- 13:05 イントロダクション(聞き手:三浦氏)
- 13:10 ディスカッション(藻谷氏×三浦氏)
- 13:30 質疑応答(藻谷氏×会場参加者)
- 14:00 終了

講座風景



主催

大分県立芸術文化短期大学 「文化と評価」研究会

## 大人のためのものづくり講座

大分工業高等専門学校 技術部 永田 玲央

概要

大分県は、工業分野・医療分野等、様々な分野における企業が数多くあり、多くの製品を世に送り出している「ものづくり県」です。しかし、日頃から「ものづくり県」大分を意識して過ごしている大分県民は、あまり多くはないのではないかと考えられます。また、日々の生活の中で、「ものづくり」を楽しんでいる県民はほとんどいないのではないのでしょうか。そこで、本講座では、以下の3つを目的にArduinoやGPS等を利用した時計の製作を行いました。

1. 「ものづくり」の楽しさを体験するとともに大分県民の「ものづくり魂」を刺激したい
2. 「ものづくり県」大分としての魅力を再認識してもらいたい
3. 大分県民の自己研鑽に貢献したい

事業内容

表1に本講座の詳細を示します。本講座では、主にArduino(図1)とGPSモジュール、LCDモジュール(図2)を用いたGPS時計の製作を行いました。講座初日にArduinoについてや、GPSの原理や活用事例等について簡単な説明を行って、GPS時計の製作を行うことで講座としての深みをもたせました。

表1 「大人のためのものづくり講座」詳細

| 8月26日(土)午前  | 8月26日(土)午後   | 8月27日(日)終日           |
|---|--|----------------------|
| ArduinoやGPSの簡単な説明(0.5h)<br>基板製作(パーツの確認、はんだ付け)(2.0h) | Arduino IDE(プログラム開発環境)の説明(1.0h)<br>プログラム作成(時刻情報取得、曜日算出、LCD表示等)(1.5h) | プログラム作成および動作確認(5.0h) |



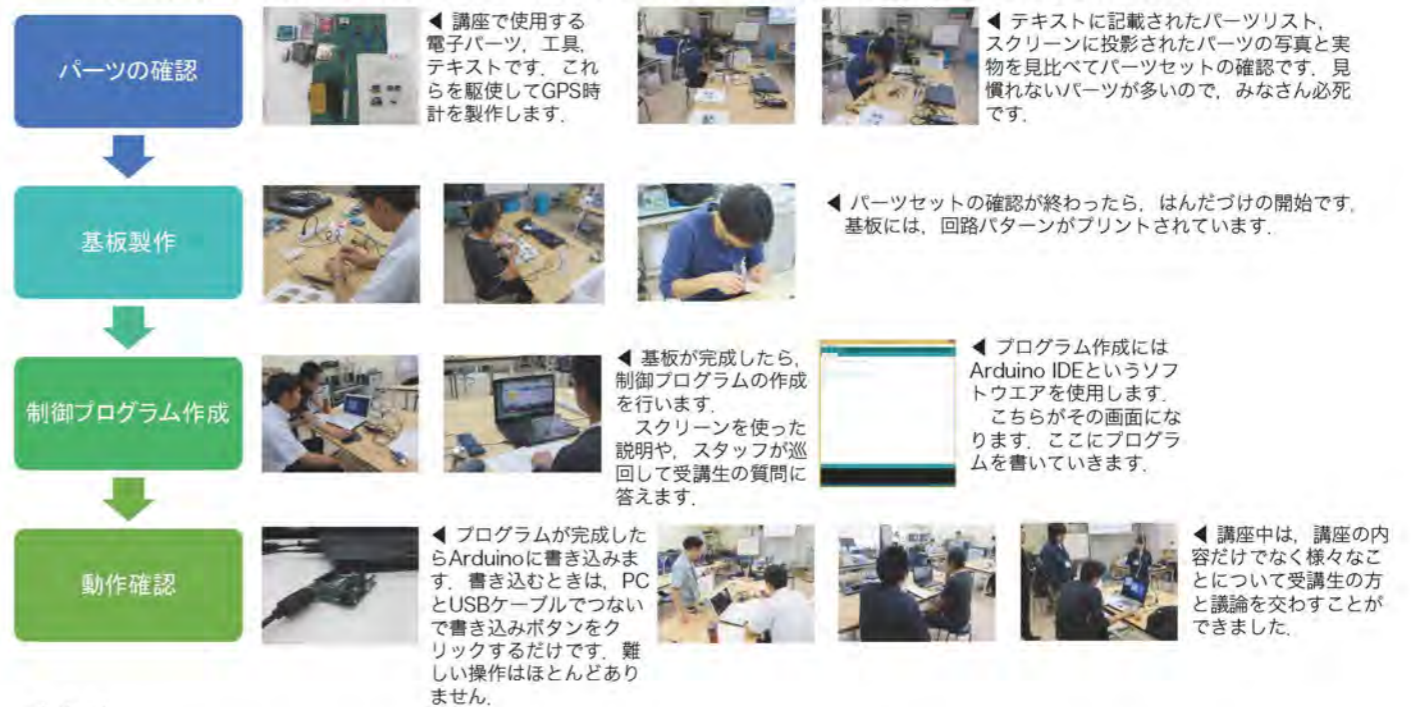
図1 Arduino



図2 製作する基板

結果

本講座は、以下に示す4つのステップで実施しました。各ステップにおける講座の状況を写真と簡単な説明で示します。



まとめ

本講座は、GPS時計の製作を通して、基板製作からプログラム作成までのものづくりを体験する内容でした。講座終了後にアンケートを実施したところ、本講座の満足度は100%でした。さらに、アンケート結果から、受講生への「ものづくり」に対するきっかけづくりができました。あわせて、本講座での基板製作を通して、受講生がはんだ付けを含む基板製作技術の基礎を習得することにも貢献できました。

今回の講座では、昨年度の反省も踏まえて、時間配分や内容等に変更を加えました。特に、プログラミングに時間を割いたため、昨年度のようにプログラミングの時間が足りなくなることはなく、すべてのプログラムを受講生の方に作成してもらうことができました。

本講座は、昨年度と今年度と2回実施しましたが、受講生数は右肩下がりで、広報のやり方にも問題があるとは思いますが、それ以上に本講座は、世間のニーズとは合っていないと感じました。そこで、来年度は内容を大幅に見直して、新しい講座を実施したいと考えています。

# <おおいたプロモーションプログラム2017>

大分の恵み再発見～五感が喜ぶ、ショートトリップ～ / 別府清部学園短期大学 / 教授 牧 昌生

# <おおいたプロモーションプログラム2017>

あなたの「 」を伝えよう:プロから学ぶ撮影のコツとSNSの利用 / 大分大学 / 准教授 久保田 亮

## 大分の恵み再発見 ～五感が喜ぶ、ショートトリップ～ 別府清部学園短期大学 特任准教授 安達 美和子 / 講師 赤木 萌子

「大分の恵み」を再発見

### 【目的および内容】

大分地域の魅力を発信するには、まず発信者自身がそこで暮らすこと・働くことの楽しさや喜びを見出すことが重要である。地域住民にとっては当たり前だと感じていることが、観光客などの外から訪れる人にとってはたいへん貴重なもの(即ち観光資源)と捉えられることもある。本事業では温泉コンシェルジュコース\*の授業をもとに、相手に体験に基づいた地域の案内ができることをめざし、大分にある「恵み」を再発見するために、座学およびフィールドワークの計5つの講座を実施した。

### \*温泉コンシェルジュコース

温泉をベースに、心と体の健康・癒しのために長期的またはリピーターとして訪れたいようなプログラムの提供と、総合的なおもてなしができる「総合案内人」を目指す。

### H28年度 五感が喜ぶ、ショートトリップ

【実施内容】 地域性を活かした取り組みを学ぶ ※FW(フィールドワーク)

- ①座学「大分の魅力スポット」
- ②FW「別府編:別府市内まち歩きとDIYランチ」
- ③FW「竹田編:長湯温泉郷の取り組み」

受講者 ▽再発見したい大分の魅力(三択回答) ※H28年度報告書より抜粋

- 1位 地域が持つ可能性
- 2位 新しいスポット
- 3位 大分ならではの地域資源を活用するアイデアや工夫

▽再発見できた大分の魅力(三択回答)

- 1位 新しいスポット
- 2位 地域が持つ可能性
- 3位 大分ならではの地域資源を活用するアイデアや工夫

本講座への要望: 講師の活動紹介、より専門的な学び ⇒ H29年度に反映



期待される効果  
 ・郷土愛の育成  
 ・広報力(口コミ力)  
 ・地域資源 = 観光資源

### 受講者からの要望

- ・新しいスポットの再発見
- ・地域が持つ可能性の探求
- ・専門的な学びへの意欲 ⇒ 南蛮文化(音楽)

### H29年度 五感が喜ぶ、ショートトリップ ～大分の暮らしと南蛮文化～

日本の中でもいち早く南蛮文化が栄えた豊後の国 大分。医療や音楽など、今日も私たちが暮らしの中で恩恵を受けているものがある。今回は座学とフィールドワークを通して、大分に息づく南蛮文化について学んだ。

#### ①座学「キリシタン・南蛮文化が花開いた先駆けの地 豊後おおいた」

講師:元大分市教育委員会教育文化財課特別顧問 玉永光洋氏

日時:平成29年9月20日(水)18:30～20:00  
 会場:サテライトキャンパスおおいた

内容:大友宗麟と宣教師フランシスコ・ザビエルの歴史的出会いを契機に全国でも先駆けてキリシタン・南蛮文化が栄えた豊後の国おおいた。県内に現存する史跡や継承されてきた文化、食や言葉などについて学んだ。



「ティセラ日本図」大分市歴史資料館

講話の様子

講師:玉永光洋氏

#### ②座学「大友宗麟と伊東マンショが見た・聴いたものは?」 ※本学オープンカレッジとの同時開催

講師:宮崎大学名誉教授 竹井成美氏

日時:平成29年10月8日(日)13:30～15:00  
 平成29年11月12日(日)13:30～15:00  
 平成29年12月10日(日)13:30～15:00  
 会場:サテライトキャンパスおおいた

内容:16世紀、豊後のキリシタン大名・大友宗麟の下で花開いた西洋文化の美態と、天正遣欧少年使節として、宗麟の名代としてヨーロッパに派遣された伊東マンショの足跡を音楽を中心に辿った。講義では当時の楽器や曲なども紹介された。



当時使用されていた楽器やダンス

講師:竹井成美氏

#### ③FW「大分の樹々から生まれる中世ヨーロッパの音」

講師:カテリーナ古楽器研究所 松本公博氏

日時:平成29年9月30日(土)9:30～17:30  
 会場:カテリーナの森、山香町温泉、赤松温泉

内容:中世ヨーロッパの楽器を復元・演奏する山香町「カテリーナ古楽器研究所」で、地元の樹々を使用した楽器作りを体験し、地域資源が活用される過程を学んだ。

また、金鉱山周辺から湧出する独特な泉質を持った温泉施設を訪問し、県内の広域観光について学んだ。



ワークショップの様子

作品と一緒に記念写真

赤松温泉

【受講者の声】 ・豊後の南蛮文化を総合的に知る機会がなかったので、たいへん勉強になった。 ・歴史講座はよく参加するが、音楽方面からの話が新鮮で楽しかった。  
 ※アンケートより抜粋 ・歴史講座と違い、楽しかった。前もって勉強してきたが、それ以上の収穫があった。 ・隠れた大分の魅力を発見できた。Facebookなどで紹介したい。  
 ・こんな素晴らしいものが地元にあるのかと驚いた。大分の竹の価値に気づかされた。 ・五感をフル活用してとても癒された。気軽に参加できるのが良い。

【展望】今回は地域の歴史文化について「南蛮文化(音楽)」というテーマから学ぶ講座となったが、予想以上に受講者からの反響があった。今後も温泉や自然など地域資源をベースとして、様々なテーマで学びの機会を創っていきたく考える。

## 概要

本プロジェクトの目的は、プロカメラマンから写真撮影のイロハを学習する機会、及び SNS を活用した「大分暮らし」発信の機会を広く一般市民に提供することにある。

この事業を通して、参加者の写真撮影スキルの向上が期待されることはもちろんであるが、個人による被写体(=大分の魅力)の探索とインターネットへの発信という過程を組み込むことで、参加者にとっては日常の魅力を再発見する機会、閲覧者にとっては地元住民目線の生きた情報を得る機会、そして個々の市民が国内外への情報発信の担い手となりうる可能性を探る機会とする。

## 事業内容

大分県内で活躍される二人のプロカメラマンである衛藤フミオ氏と立川裕一氏を講師に迎え、公開講座「光でこんなに変わる!プロに学ぶカメラ講座」を2017年10月28日、ホルトホール大分にて実施した。

定員40名に対し、58名からの応募があった。当日の受講者数は20代から70代の一般市民37名だった。

講座では、前半2時間を両講師による講義、昼休みを挟んだ後半2時間を受講者参加の実技指導を行なった。

## 結果



アンケートおよび有志による意見交換会の結果、写真撮影時の光についての意識が高まった、所有しているカメラの機能について学び直すためのいい機会だった、高い機材を購入しなくても良い写真が撮影できることがわかった、実演で学んだことを真似してみたい、プロカメラマンの話を直接聞く貴重な機会だった、など多くの好意的な意見が寄せられた。

## まとめ

写真撮影における心構えや技術についての情報を提供するという点については、概ね達成できた。

他方、本プロジェクトのもう一つの目的であるSNSを利用した情報発信・地元の魅力再発見という点については、現段階でその成否を評価することはできないものの、プロカメラマンの被写体やオーディエンスとの向き合い方についての講演は「ファインダー越しの日常世界をいかに切り取るべきか」ということに、受講者の意識を向けさせるに十分なものだった。

# <おおいたプロモーションプログラム2017>

おおいたの精油(アロマ)の魅力と体験～森のかおりとアロマテラピー～ / 大分大学 / 教授 氏家 誠司

## 香りの魅力と体験 ～おおいた森のかおり(天然精油)～

### 概要

大分大学理工学部 氏家誠司, アロマテラピーインストラクター 石川さやみ  
Tel: 097-554-7903 / e-mail: seujiie@oita-u.ac.jp

### 【目的】

- \*おおいた県産品から得られる香り成分である木質系精油(アロマ)を中心にその基本的性質や利用方法について知ってもらう。
- \*参加者に精油(アロマ)の実物を体験してもらい、その魅力や効用を理解し、利用方法について体験する。

### 【プログラム】 2017年11月26日13:30～17:00

#### 【講義1】 13:30～14:10

1. 自然界における香り成分(天然香料)とその利用の歴史
2. 合成香料(ピネン, リモネールなど)と天然香料(スギ, ヒノキ, クロモジなど)

#### 【講義2】 14:10～15:50

1. なぜ植物は香をもつのかを考え植物からの恵みである精油(エッセンシャルオイル)を使うアロマテラピーの紹介
2. 大分の森の香り(スギ葉, スギ枝葉, ヒノキ枝葉, ヒノキ木部, クロモジ, ローズゼラニウム)の精油を体験し森の癒し(森林浴)のメカニズムやその効果の説明

#### 【体験】 15:50～17:00

1. 各種精油を実際に扱い、その香りを認識した。
2. 自分の好みの香りを精油を混合することで作った。
3. 香りゲルを作製し、自分の好みの香りゲルを混ぜることで香り調合した。



講義風景

\*アロマテラピーについての解説



体験風景

\*アロマゲル作製体験



アロマゲル

\*体験で用いた香り成分を吸収させたゲル

### 事業内容

#### 化学工業からみた香料

1. 紀元前: アレキサンドリアに香料工場
2. 香料用香木, 香花, 香油の貿易: ローマからフランスへ
3. 香料植物の栽培⇒香料工業への発展
4. 日本では16世紀にショウノウの生産技術が中国から伝来
5. 18世紀になって近代的化学工業が始まると、1860年代に化学合成によってさまざまなにおい物質が製造されるようになった。
6. 19世紀に土佐で水蒸気蒸留法によってショウノウ生産が発展した。
7. 第二次世界大戦後、天然ショウノウに代わって(はっか, ラベンダー, ゼラニウムなどの生産が増えるが、石油化学工業の発展とともに合成品へ移行
8. すべての合成品で対応できるわけではない。白濁油の主成分は合成が大量なため代替品が利用される。

#### \*アロマテラピーとは

- ・花の香り, フルーツの香り, 森の香り, 植物の香りは、私たちの心や身体にさまざまな働きかける。
- ・アロマテラピーは、植物から抽出した香り成分である精油(エッセンシャルオイル)を使って、心身のトラブルを穏やかに回復し、健康や美容に役立てていく自然療法である。

#### \*アロマテラピーの源流は古代

- ・古代から、人類は植物の香りを利用し、医療にも役立てていた。
- ・20世紀初頭に「アロマテラピー」という言葉が登場し、精油やアロマテラピーの研究が進んだ現在では、美容、健康の増進、リラクゼーション、スポーツ、介護や医療、予防医学などでも活用されている。

### 体験で用いた香り物質(抜粋)

| 天然成分           | 天然精油に含まれる香り成分 | 構造                         | 性質・香り  |
|----------------|---------------|----------------------------|--|
| イソプレン<br>テルペン類 | イソプレン         | <chem>CC(C)=CC</chem>      | ☆テルペンはイソプレン(天然ゴムの基本骨格)を構成単位とする炭化水素。<br>☆植物や昆虫、菌類などによって作り出される生物物質である。<br>☆もともと精油の中から大量に見つかった一群の炭素10個の化合物に与えられた名称。<br>☆分類によってはテルペン類のうち、カルボニル基やヒドロキシ基などの官能基を持つ誘導体はテルペノイドと呼ばれる。それらの総称としてイソプレノイドという呼称も使われる。テルペノイドは生体内で合成される。<br>☆柑橘類の果皮に多く含まれる。<br>☆酸化されやすい。<br>☆強いレモン臭。<br>☆ハッカ油   |
| リモネン           | リモネン          | <chem>CC1=CCC(CC1)C</chem> | ☆モノテルペン類の果実に多く含まれる。<br>☆強いレモン臭。<br>☆ハッカ油   |
| リナロール          | リナロール         | <chem>CC1=CCC(CC1)C</chem> | ☆ローズウッド, パラ, ラベンダーに含まれる。<br>☆スズラン, ラベンダー, ベルガモット種の芳香。他のモノテルペン香料物質の原料。☆ピタミンおよびピタミンBの合成原料。第4類危険物 第3石油類。<br>☆β-ピネンあるいはアセチレンなどから合成される。   |
| ピネン            | ピネン           | <chem>CC1=CCC(CC1)C</chem> | ☆針葉樹に含まれる。<br>☆ローズマリーやバゼリ, バジル, イノンド, パラに含まれる。<br>☆リナロールの合成原料。<br>☆反応性が高く、合成原料として利用。<br>☆リモネン骨格のものも合成される。  |
| ゼラニオール         | ゼラニオール        | <chem>CC1=CCC(CC1)C</chem> | ☆ゼラニウムから発見された直鎖モノテルペン類の一種。<br>☆主にローズオイル, ハルマローザ油, シトネラ油に含まれる。<br>☆無色または薄い黄色の液体で、水には溶けないが多くの有機溶媒には溶ける。<br>☆バラに似た芳香で、広く香水に使用。<br>☆ユーカリ精油から蒸留で得られる。<br>☆こころよい芳香(樟脳似)と味の黄色い液体。食品添加物、香料、化粧品に利用。<br>☆口中清涼剤や吐き止めに配合。<br>☆炎症や痛みを和らげる作用。<br>☆ハッカ油を持つ。揮発性の無色結晶。<br>☆ハッカ油から取り出される。<br>☆メントールは菌類やチューインガムなどの菓子類、口中清涼剤、局所血管拡張作用、皮膚刺激作用等。<br>☆天然物を超える利用量があるため人工的に大量に合成される。合成過程には不斉反応工程が含まれる(ノーベル賞)。 |
| シネオール          | シネオール         | <chem>CC1=CCC(CC1)C</chem> | ☆ハッカ油から取り出される。   |
| メントール          | メントール         | <chem>CC1=CCC(CC1)C</chem> | ☆ハッカ油から取り出される。   |

#### なぜ植物は香りを持つのか?

- ・鳥や昆虫を引き寄せて、繁殖に役立てる(誘引効果)
- ・害虫、害獣を寄せ付けないようにする(忌避効果)
- ・有害な菌やカビなどから身を守る
- ・病気を傷を修復させるため
- ・生存競争の相手を妨害する
- ・他の植物とのコミュニケーションとして

#### フィトンチッドってなに?

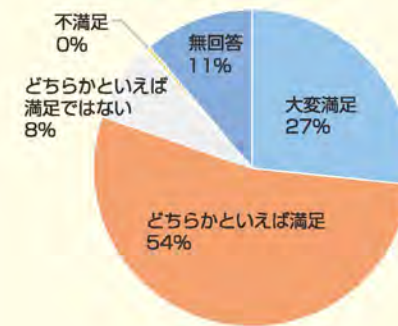
「森(森林)に入ると「気持ちいい」「清々しい」と感じるのはなぜでしょう?」

樹木や草花から発散する香りの成分(揮発性物質(フィトンチッド))が森林の中にあるからです。  
◎フィトンチッドの語源...1930年頃にロシア生物学者ボリス・P・トールキン博士が発見・命名。  
【造語】フィトン(植物)・チッド(殺す)=植物で殺す(例)刺身など生魚をわさびと一緒に食べるのは、すりおろしたわさびから放出された揮発性物質が細菌類等を死滅させるため、松の木周囲に草が生えにくいことなど。  
◎フィトンチッドの成分... αピネン カンフェン β-ピネンなど

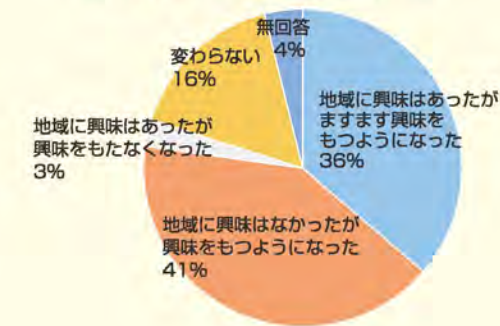
これらの成分は人間にとって、免疫力(NK細胞)の向上ストレス低減、疲労の自覚症状の改善、リラックスし、ストレスホルモン(コルチゾール)の減少効果などの効果があるとされている。

## 【学生による地域ブラッシュアッププログラム アンケート 集計結果】

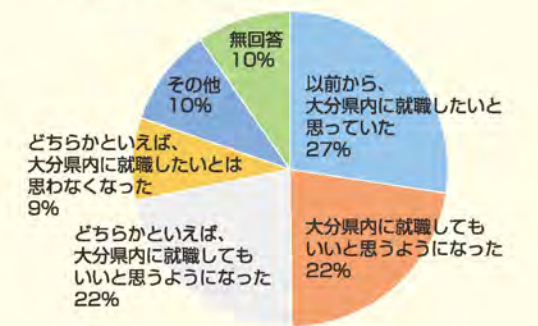
Q1. 参加したプログラムは満足いく内容でしたか?



Q2. 本プログラムに参加しての意識の変化についてお聞きします。

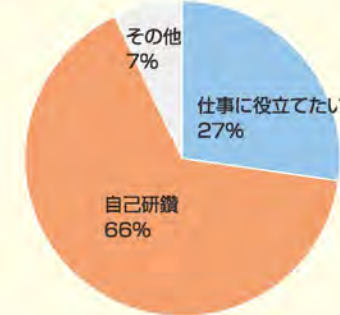


Q3. 本プログラムに参加しての進路希望の変化についてお聞きします。

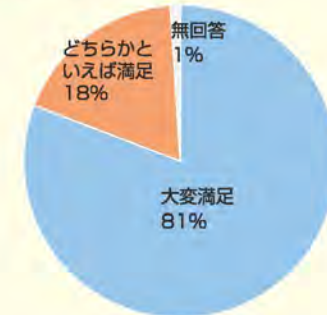


## 【おおいたプロモーションプログラム アンケート 集計結果】

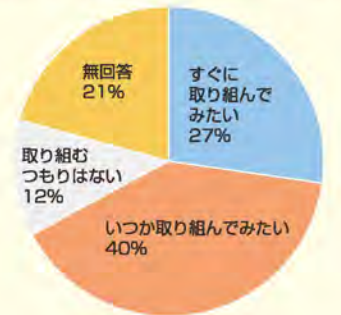
Q5. どのような目的で受講されましたか?



Q6. 本講座は満足いく内容でしたか?



Q7. 講座を受講して講座に関連した活動をご自身でも取り組んでみたいと思いませんか?



## 「地域×若者」地域の未来は私たちが創る!!

この事業は地方創生に向けた地域に貢献できる人材の育成や若者の地元定着を推進する事を目的に行われていますが、アンケート結果からも若者が地域に出向き地域を知ることによって地域愛が芽生え若者自身の進路選択に影響を与えている事が推察されます。多くの若者に大分で活躍してもらうために大学等による「おおいた創生」推進協議会では今後も多くの高等教育機関が地域と連携してプロジェクトを行って参ります。平成30年度も皆様のご協力をお願い申し上げます。

